

# 市民等との協働事業一覧

(平成29年度事業)



平成29年度市民等との協働事業一覧

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規	
1	企画部	秘書広報課	広聴・国際交流担当	青梅マラソン参加外国招待等選手役員受入事業	1		
2		企画政策課	企画政策担当	男女平等情報紙発行事業	3		
3	生活安全部	防災課	防災係	青梅市防災講演会	5		
4				市民安全課	市民相談係	行政書士による無料相談会	7
5		不動産鑑定士による無料相談会	9				
6		不動産無料相談会	11				
7		日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス)の無料法律相談会	13				
8		相続税等無料相談会	15				
9		弁護士による土曜日無料法律相談会	17			○	
10		青梅市市民のくらし展	19				
11		住宅課	住宅政策係			青梅市住宅なんでも相談会	21
12				青梅市定例住宅相談会	23		
13		市民部	市民活動推進課	市民活動推進係	協働事業市民推進委員会	25	
14					お〜ちゃんフェスタ2017	27	
15	市民活動団体支援講座				29		
16	「おそきだより」の発行				31		
17	ボランティア・市民活動紹介展				33		
18	青梅市民センター			青梅市民センター運営協議会	35		
19				青梅市民センター文化祭	37		
20				サークル共催講座	39	○	
21	長淵市民センター			長淵市民センター運営協議会	41		
22				長淵地区文化祭	43		
23	大門市民センター			大門市民センター運営協議会	45		
24				文化展	47		
25				ふるさと地域散歩	49		
26	梅郷市民センター			梅郷市民センター運営協議会	51		
27				梅郷市民センター文化祭	53		
28	沢井市民センター			沢井市民センター運営協議会	55		
29				三田地区総合文化祭	57		
30	小曾木市民センター			小曾木市民センター運営協議会	59		
31				小曾木地区文化祭	61		
32	成木市民センター			成木市民センター運営協議会	63		
33				成木地区文化祭	65		
34		東京ヒルクライム(自転車競技)	67				
35	東青梅市民センター	東青梅市民センター運営協議会	69				
36		東青梅市民センターコミュニティ文化祭	71				
37		第八支会ささえあいフェスティバル	73				
38		ファミリーゲーム体験	75	○			
39	新町市民センター	新町市民センター運営協議会	77				
40		新町末広地区市民文化祭	79				
41		新町エコクラブ	81	○			

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規		
42	市民部	市民活動推進課	河辺市民センター	河辺市民センター運営協議会	83			
43				河辺市民センター文化祭	85			
44			今井市民センター	今井市民センター運営協議会	87			
45				今井市民センター文化展	89			
46				市民ウォーキング	91			
47			スポーツ推進課	スポーツ推進係	第52回青梅マラソン大会	93		
48	環境部	環境政策課	管理係	おうめ環境フェスタ2017	95			
49				おうめ環境ニュースの発行	97			
50				クーズビズ運動	99			
51				みんなで打ち水！	101			
52				ウォームビズ運動	103			
53				エコドライブ運動	105			
54				みどりのカーテン事業	107			
55				ガサガサ水辺の探検隊	109			
56				多摩川まるごと遊び塾	111			
57				がんばれ！あゆっ子2017「稚鮎の放流と多摩川生物の生態系調査」	113			
58				第9回炭焼き体験と水辺の交流会	115			
59				親子魚釣り教室2017(自分で釣った魚はおいしいね！)	117			
60				じゃぶじゃぶ川であそんじゃおー	119			
61				いかだであそぼう in 霞川 Part9	121			
62				かすみ川で遊ぼう お魚つりに挑戦	123			
63				飼い主のいない猫の合同里親会	125			
64				動物愛護週間イベントinおうめ	127			
65				さくらねこ無料不妊手術事業	129			
66				清掃リサイクル課	ごみ減量推進係	「青梅市ごみ収集カレンダー」の音声化事業	131	
67						生ごみたい肥化(ダンボールコンポスト)事業	133	
68	「ごみ収集カレンダー」の点訳事業	135						
69	健康福祉部	高齢介護課	高齢者支援係	青梅市見守り支援ネットワーク事業	137			
70			包括支援係	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	139			
71			認知症サポーター養成研修事業	141				
72			介護サービス相談員派遣事業	143				
73			高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	145				
74		障がい者福祉課	庶務係	青梅市障がい者交流バスハイク	147			
75			認定サービス係	平成29年度 中級手話講習会	149			
76		健康課	健康推進係	第48回おうめ健康まつり	151			
77	子ども家庭部	子ども家庭支援課	支援係	永山ふれあいセンター「キッズぱーく」管理・運営事業	153			
78			青梅市ファミリー・サポート・センター事業	155				
79			子育てネット事業	157				
80			子どもふれあいフェスタ2017	159				
81	子ども家庭部	子ども家庭支援課	支援係	青梅市民センター子育て支援事業	161			
82			青少年担当	青梅市親子ふれあい綱引き大会	163			

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規
83	まちづくり経済部	都市計画課	景観係	青梅駅周辺景観まちづくり	165	
84		公園緑地課	公園管理係	大塚山いこいの森ボランティア	167	
85		公園緑地課	公園管理係	緑地管理ボランティア	169	
86				青梅の森柚保プロジェクト(青梅の森保全事業)	171	
87		商工観光課	観光係	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	173	
88		農林課	林務係	森林ボランティア育成講座	175	
89	教育部	指導室	指導係	学校教育ボランティア	177	
90		社会教育課	生涯学習推進係	生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2017～	179	
91				家庭教育講演会	181	
92				あつまれ！0・1・2・3 ちびっこ☆ランド	183	
93		中央図書館管理課	管理係	「この指とまれ！」朗読会	185	
94				中央図書館整架ボランティア	187	
95				おはなしボランティア	189	
96				文化課	鎌倉時代から戦国時代にかけて青梅を中心に活躍した「武州青梅三田弾正手作り甲冑隊」を活かした地域おこし	191
97	市民提案 協働事業	障がい者福祉課		目の不自由な人たちのためのスマホ・タブレット活用促進事業		
98		企画政策課・スポーツ推進課		東京2020大会カヌースラロームのキャンプ誘致から考える、カヌー競技の魅力と奥深さ		
99		農林課		森林資源の魅力発信事業		
100		社会教育・市民活動推進課		第1回サマーフェスティバル		
101		教育部・住宅課・農林課・企画政策課		おそきの未来の青写真を創る事業		



協働事業評価シート

(96事業)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅マラソン参加外国招待等選手受入れ事業	担当課	秘書広報課 交流担当
------	----------------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年2月16日から18日 場所:第52回青梅マラソン大会会場
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和58年2月)
(2) 事業の目的	国際交流の促進のため、青梅マラソン大会に参加する外国人招待選手等の受入れを、青梅・ボッパルト友好協会、青梅市日本中国友好協会と連携して行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅マラソン大会に参加する外国人招待選手等に対し、おもてなしを通じて更なる国際交流の促進を図る。
	姉妹都市ボッパルト市からの招待選手(1名)および中国大使館総領事(1名)に対し、市長への表敬訪問および開会式・大会当日のほか、青梅市滞在中における支援を行った。
(5) 事業経費(決算額)	姉妹都市ボッパルト市からの招待選手羽田空港迎え 5,060円(有料道路+駐車場代)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・ボッパルト友好協会、青梅市日本中国友好協会 参加人数:7名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	各友好協会が市民レベルでの交流を行なっており結びつきも強いいため、外国人招待選手について青梅市との共催事業としている。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 来青までの事前調整、宿泊先の確保等  行政側: 大会へのエントリー、空港への迎え、大会前日、当日の誘導や通訳者の確保

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

青梅マラソン大会を通じた市との協働により、友好都市の方々との交流を更に深めることができた。

#### 行政側

普段から交流を行っている友好協会と協働することにより、事前調整や宿泊、市民交流をスムーズに行うことができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

市との連携を強化し、今後も継続可能な受入体制を構築したい。

#### 行政側

青梅マラソン(スポーツ)交流を継続していくため、受入体制等、身の丈にあった対応を検討して行く。

### 事業の様子(写真等)

#### 別添のとおり



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	男女平等情報紙発行事業	担当課	企画政策課企画政策担当
------	-------------	-----	-------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間: 毎年 場所: 青梅市役所会議室他	
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年4月)
(2) 事業の目的  男女平等情報紙を通じて市民に対し、男女平等参画意識の啓発と理解を深める。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等)  市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めるため、男女平等情報紙を発行する。	
(4) 実施内容(実績値等)  情報紙の企画立案、取材調査、編集、発行を行う。	
(5) 事業経費(決算額)  949,070円	

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態  2.事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: mamicotto、NPO法人青梅こども未来、青梅商工会議所、市民一般公募(2人) 参加人数: 各団体1人ずつ計5名	
(3) 協働の提案者 1行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 出来る限り市民の声を反映した情報紙を発行し、市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めてもらうため	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階  その他の場合具体的に(	
(6) 役割分担  市民側: 企画立案、情報収集、編集  行政側: 計画立案、情報収集、編集、発行	

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

テーマ決めや取材方法、また取材先や分担まで市民委員と行政が最初から一緒に相談し、作成することができた。進め方については、行政側の専門的な知識や情報を活用した。市民に関心をもってもらい、親しみやすい内容にするための話し合いでは、市民委員の意見が多く取り入れられた。

#### 行政側

市民と協働で発行することにより、堅苦しい情報紙ではなく、市民が読みやすい情報紙が発行できた。市民が関心のある内容や情報、疑問に感じていることなどを情報交換することができ、意見交換の場としても良い機会となっている。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

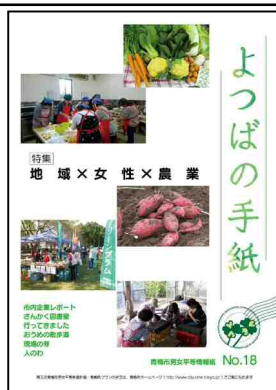
#### 市民側

年2回の発行のため、編集期間としては十分な時間だったが、それぞれの都合もあり、委員会開催日に全員が揃うことが難しかった。各自が資料を送り、行政側にまとめ作業を任せるといことも多かったので、担当者には負担があったと思う。男女平等情報紙という役目は守りつつ、さらに一般市民(読者)の声や意見も取り入れた編集ができると一層充実した内容になると思う。

#### 行政側

男女平等参画社会の実現をめざし、行政が発行する情報紙としての認識を維持しながら市民が親しみやすい内容の情報紙を発行しなければならない。また、編集作業において役割分担を整理することでより効果的な運営体制となる。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市防災講演会	担当課	防災課防災係
------	----------	-----	--------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年1月21日(日)午前10時から正午 場所： 青梅市役所2階204～206会議室、災害対策本部室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成26年1月)
(2) 事業の目的	1月15日から21日までの「防災とボランティア週間」に合わせて、防災に関する講演会を実施し、市民の防災知識の向上を図ること。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	より多くの住民参加と防災意識等の啓蒙・啓発
(4) 実施内容(実績値等)	○講演内容 地域防災は自助・共助 災害に負けない地域づくり(講師:災害伝承10年プロジェクト災害伝承語り部 三浦 貞一)
(5) 事業経費(決算額)	

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市自治会連合会 参加人数: 269人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	防災意識の向上と自治会活動の活性化および加入促進を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 各自治会への参加協力チラシの配布や呼び掛け 行政側： 市民、関係機関等への周知

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2

### (11) 協働による効果

#### 市民側

市と連携を図りながら講演の実施運営および災害時の対応や防災知識など学ぶことが出来た。

#### 行政側

市と自治会連合会が連携を図ることができ、市民の防災意識の向上を図ることができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

災害時は自助、共助が必要であるため、共助の部分で中心となる自治会会員を防災意識、訓練とともに増やしていくこと。

#### 行政側

より多くの市民の参加を図るための周知と自治会未加入者の防災知識の向上

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	行政書士による無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	--------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年10月27日(金) 午前10時から午後4時 場所：市役所2階会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年10月)
(2) 事業の目的	一般市民への行政書士制度の普及および相談支援
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料相談会を開催し、行政書士制度の普及、浸透を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	行政書士による相続、不動産、成年後見などの無料相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：東京都行政書士会多摩西部支部 参加人数：3人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	東京都行政書士会多摩西部支部からの要請による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応  行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

市民側 行政書士制度の普及・浸透を図り、相談支援ができた。

行政側 相続、遺言に関する相談を図れた。  
相談者数9人

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側 無料相談会の開催により、行政書士制度のさらなる普及・浸透を図っていきたい。

行政側 行政書士制度の普及を図り、継続的に行政書士を活用した市民へ支援を行いたい。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	不動産鑑定士による無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	----------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年10月23日(月) 午前10時から午後4時 場所：市役所2階会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成16年10月)
(2) 事業の目的	一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	相談時間内で概ね10名程度を目標とする。
(4) 実施内容(実績値等)	不動産鑑定士による不動産に関する無料相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会 参加人数：6人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会の要請による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応  行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図ることができた。			
行政側 不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識や安全な取引の推進が図れた。 相談者数4人			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識の普及や安全な取引の推進向上に寄与したい。			
行政側 安全な不動産取引がされるよう相談会を継続して開催していく。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	不動産無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	----------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年9月4日(月) 午前10時から午後4時 場所：市役所2階会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成16年10月)
(2) 事業の目的	一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	相談時間内で概ね10名程度を目標とする。
(4) 実施内容(実績値等)	不動産鑑定士による不動産に関する無料相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：公益社団法人 全日本不動産協会東京都本部多摩西支部 参加人数：9人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	(公益社団法人)全日本不動産協会東京都本部多摩西支部からの要請による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応  行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

市民側 消費者に対して不動産に関する知識の普及並びに不動産取引事故防止の徹底に努めることができた。

行政側 市民が抱えている不動産に関する諸問題の解決が図れた。  
相談者数33人

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側 無料相談会の開催により、不動産に関する知識の普及並びに不動産取引事故防止に努めていきたい。

行政側 安全な不動産取引がされるよう相談会を継続して開催していく。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス)の無料法律相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	-------------------------------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：平成29年10月26日(木)・12月7日(木) 午後5時から午後8時10分 場所：市役所2階会議室
2継続事業                      ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年10月)
(2) 事業の目的 市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方を対象に、弁護士による「無料法律相談会」を実施する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 無料法律相談会の開催。開催日ごと、5名まで先着順で受付を行う。
(4) 実施内容(実績値等) 弁護士による無料法律相談会
(5) 事業経費(決算額) 0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス多摩)、東京三弁護士会多摩支部 参加人数：各回1人 計2人
(3) 協働の提案者 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 日本司法支援センター(法テラス)からの要望による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担 市民側：相談員派遣、相談対応 行政側：会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

市民側 市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方の法律に関する相談に応えることできた。

行政側 市民への法律相談への機会をふやすことにより、市民生活での法的トラブルの解消が図れた。  
相談者数10人

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側 無料法律相談の開催をし、より多くの方の相談に応じていきたい。

行政側 市民への法律相談の機会をふやすために開催したい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	相続税等無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	-----------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年1月11日(木) 午後1時から午後4時 場所：市役所2階会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成29年3月)
(2) 事業の目的	相続税等様々な税に関する無料相談会を実施する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	相続税等の相談会の開催。12名まで先着順で受付を行う。
(4) 実施内容(実績値等)	税理士による相続税等無料相談会
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：東京税理士会 青梅支部 参加人数：2人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	東京税理士会 青梅支部からの要望による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：相談員派遣、相談対応  行政側：会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 税に関する諸問題に関する相談に応えることできた。			
行政側 税相談を行うことにより、市民が抱えている税に関する諸問題の解決が図れた。 相談者数12人			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 税相談の開催をし、より多くの方の相談に応じていきたい。			
行政側 市民への税相談の機会をふやすために開催したい。			
事業の様子(写真等)			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	弁護士土曜日無料法律相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	---------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年3月17日(土) 午後1時から午後4時 場所：市役所2階会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成27年3月)
(2) 事業の目的	市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方を対象に、弁護士による「無料法律相談会」を実施する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料法律相談会の開催。12名まで先着順で受付を行う。
(4) 実施内容(実績値等)	弁護士による無料法律相談会
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：東京弁護士会、東京三弁護士会多摩支部 参加人数：2人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	東京弁護士会、東京弁護士会多摩支部からの要望
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：相談員派遣、相談対応  行政側：会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方の法律に関する相談に応えることできた。			
行政側 市民への法律相談への機会をふやすことにより、市民生活での法的トラブルの解消が図れた。 相談者数11人			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 無料法律相談の開催をし、より多くの方の相談に応じていきたい。			
行政側 市民への法律相談の機会をふやすために開催したい。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市市民のくらし展	担当課	市民安全課市民相談係
------	------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年11月4日(土)・5日(日) 午前10時から午後4時 場所:永山公園グラウンド(青梅産業観光まつりに併設)
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成17年8月)第1回実行委員会開催月
(2) 事業の目的	『「楽しもう日々のくらし！みんなの未来のために！」～みつけてかえろう 楽しむヒント～』をテーマに、消費生活に関する知識や情報を発信し、1人1人が自立した消費者になるための啓発を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	産業観光まつりの来場者に対し、生活の中で知ってもらいたい情報(消費者関係、行政関係)を展示、催し物等により発信する。
(4) 実施内容(実績値等)	展示コーナー:パルシステム東京、コープみらい・みらいひろば青梅新町、実行委員会、ボランティア協力団体、人権・行政相談、交通安全・防犯・ちょこっと共済、食品ロス啓発、男女平等参画社会、自治会連合会、ごみの減量他 クイズ(2日間1,010人)、おもちゃの病院、消費者相談、消費者クイズ、食品衛生啓発、フードドライブ、アンケート(ラスク・サブレ配布)
(5) 事業経費(決算額)	922,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:「生活協同組合パルシステム東京」13人、「生活協同組合コープみらい みらいひろば青梅新町」14人、「都立青梅総合高等学校」6人、「都立多摩高等学校」3人、「都立青峰学園」
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成16年度まで消費生活展として実施していたが、婦人会団体がなくなったため、平成17年度からは「市民のくらし展」として、実行委員会を組織して開催している。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: くらし展実施企画・運営、啓発パネル等の作成、展示、説明 行政側: 実行委員会会議の設定、くらし展会場の総括、準備、整理

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

両日とも天候に恵まれたため、多くの来場者があり、テーマに沿った展示等を行い、消費者についての情報発信や消費者啓発ができた。高校生ボランティアは、展示コーナーの紹介や啓発活動を通して、消費者としての情報を学ぶ機会となった。

#### 行政側

産業観光まつりに併設して実施しているので、多くの来場者に消費生活をはじめ人権・行政相談、自治会、ごみ減量、防犯、交通安全等について広く効果的な啓発活動ができた。また、集客のために行ったクイズ等で市内産野菜を利用するなど地産地消の推進を図った。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

ラスク等を来場アンケートの回答者に配布する形にしたが、アンケートを実施することで、くらし展についての感想等を聞くことができ有意義だった。実行委員会として協力する団体が減少し、また協力団体の構成員も減少してきているため、くらし展の実施は負担が大きくなってきている。新しい協力団体の募集等が必要。

#### 行政側

昨年度から実行委員会の構成団体が2団体となり、企画運営等で構成団体に負担増にならないように事務局も協力して実施できた。構成員の減少等による本事業への負担を軽減するためにも、協力団体を増やす必要があるが、希望する団体がいないのが現状である。実施内容等の見直しも今後必要になってくると考える。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市住宅なんでも相談会	担当課	住宅課 住宅政策係
------	--------------	-----	-----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年10月28日(土) 午後1時30分～4時30分 場所： 市役所2階 204・205会議室
	2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年 11月)
(2) 事業の目的	市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、空家の相続、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕・維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料の住宅相談会を開催し、市民の住宅に関する問題や悩みを解決する。
(4) 実施内容(実績値等)	相談件数 22件
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市住宅施策推進協議会と行政書士会、司法書士会 (民間の不動産事業者や建築士等の協会で構成される任意団体)  参加人数： 16人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階  その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談会当日の相談員  行政側： 市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込み受付、相談会当日の受付、結果のとりまとめ

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うとともに、各協会のPRにつながった。			
行政側			
住宅に関する相談窓口を開設することにより、相談者の悩みを解消することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政書士会、司法書士会にも協力を得て、昨年対応できなかった「空家の相続問題等、専門的な相談にも対応することができた。			
行政側			
さらに相談者を増やすための効果的な周知方法等を検討する。 また、相続問題等に対応するため、引き続き司法書士会や行政書士会等と連携する。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市定例住宅相談会	担当課	住宅課 住宅政策係
------	------------	-----	-----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年4月20日～平成30年3月15日の第3木曜日(10月を除く) 場所： 市役所1階ロビー
	2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成26年 7月)
(2) 事業の目的	市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、空家の相続、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕、維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料の住宅相談会を開催し、市民の住宅に関する問題や悩みを解決する。
(4) 実施内容(実績値等)	開催回数 11回 相談件数 21件
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市住宅施策推進協議会と行政書士会、司法書士会 (民間の不動産事業者や建築士等の協会で構成される任意団体)  参加人数： 延25人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階  その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 相談会当日の相談員  行政側： 市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込み受付、相談会当日の受付、結果のとりまとめ

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うとともに、各協会のPRにつながった。

#### 行政側

住宅に関する相談窓口を開設することにより、相談者の悩みを解消することができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

行政書士会、司法書士会にも協力を得て、昨年対応できなかった「空家の相続問題等、専門的な相談にも対応することができた。

#### 行政側

さらに相談者を増やすための効果的な周知方法等を検討する。  
また、相続問題等に対応するため、引き続き司法書士会や行政書士会等と連携する。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	協働事業市民推進委員会	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年5月9日、7月27日、11月16日、平成30年2月15日 場所：市役所会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年3月)
(2) 事業の目的	市の協働事業に対する意見や今後の協働のあり方等について市民の意見を求め、協働の推進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	
(4) 実施内容(実績値等)	協働事業実施結果について意見をもらう。今後の協働のあり方等について意見をもらう。
(5) 事業経費(決算額)	謝礼金90,000円(@10,000円×9人)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：NPO法人、自治会連合会、公募、ボランティア・市民活動センター 参加人数：9人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市における市民活動団体等との協働事業の推進に関する指針
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 提案や意見の発表  行政側： 会議の事務局

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 協働事業の検証や今後の課題を論議する場となっている。これからのまちづくりに市民の参画や協働は欠かせないものである。それには、いろんな立場や考えで意見交換する場、行政へ提言提案していくことが必要であると考え。</p>			
<p>行政側 多様な団体からの推薦委員と公募委員からなる当委員会が出された市の協働に対する意見を、庁内協働推進会議への報告書として提出するようにまとめを行った。また、市民活動団体対象の講座を開催し、この委員会委員に参加をいただき、情報共有を行うことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 多岐にわたっている論議を整理して庁内の協働推進委員会への提言することが充分とは言えない。市民団体と行政担当者との共通の学習(講座)などでパートナーとしての意味(絆)を深めよりよい協働へつなげていきたい。</p>			
<p>行政側 委員会で出された市民委員の意見をまとめ、庁内会議に文書で報告するようにまとめを行った。今後は、それを各施策へ反映させていくことが課題である。具体的な課題を絞り検討していくことで、協働事業の課題解決や推進に反映していくことができると考える。事務局として会議の運営について調整し、実践できる方策を整理していきたい。</p>			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	お〜ちゃんフェスタ 2017	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	----------------	-----	--------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年9月17日（台風接近のため中止） 場所： 市役所西側駐車場および2階会議室
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(      年      月)
(2) 事業の目的	ボランティア・市民活動団体、福祉団体、施設、企業、市民が一体感を共有できる機会をつくる。地域や世代を超えた交流や発表の場をつくり、より一層コミュニティの活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	フェスタを通し、ボランティア・市民活動団体・福祉団体・施設・企業・市民が様々な形で交流することで、相互の理解を深め、地域の活性化につなげる。
(4) 実施内容(実績値等)	ボランティア・市民活動団体・福祉団体・施設・企業等の活動紹介と展示、模擬店出店、バザー
(5) 事業経費(決算額)	

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市社会福祉協議会 参加人数：
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	以前は福祉団体が中心に「ふくし祭」として実施していたが、ボランティア・市民活動団体を含めた発表の場として実施していくこととなった
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 事業実施、広報活動（広報おうめ以外）  行政側： 作業実施のサポート、広報活動（広報おうめ）

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3
(11) 協働による効果			
市民側 ・開催直前の中止だったが、協働で行ったので各団体や関係部署への中止連絡等もスムーズに行うことが出来た。			
行政側 役割として、広報掲載・周知を行った。直前の中止による連絡周知は、連携しスムーズに行うことができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 ・台風の時期なので、今後も開催中止になることも想定される。開催時期の検討。 ・参加団体が増えて祭りとしては賑やかになったが、本来の目的が薄れてきたようにも感じる。			
行政側 市民活動団体の紹介等の場としての充実を図っていく必要があると思われる。協働事業として今後確立させるため、事前協議と当日の役割分担を明確にしていきたい。			
事業の様子(写真等)			
中止により無			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	市民活動団体支援講座	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	------------	-----	--------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年2月13日 場所： 市役所2階会議室
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(      年      月)
(2) 事業の目的	協働事業の担い手である市民活動団体等の研修を行い、組織強化することで新規性、先進性の高い協働事業を実現可能とするため
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民活動団体が安定した活動を行い、持続的に発展していくために
(4) 実施内容(実績値等)	「仲間をふやす」～新しい仲間を見つけるためには～をテーマに、市民活動団体に属している方・興味のある方対象に、NPO法人れんげ舎 長田英史 氏による支援講座。 団体への共感の輪を広げ、新たな仲間をふやすために必要なポイントを学ぶ。 出席者23人
(5) 事業経費(決算額)	市民活動団体支援講座講師報奨金30,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅ボランティア・市民活動センター 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	協働事業の担い手である各市民活動団体向けの研修を組みこむことになり、ボラセンとの協働を投げかけた
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画・受付・運営  行政側： 企画・受付・運営・広報

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	2	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	2	4
	(4) 協働相手は適切だった	2	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	2	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

・センター登録団体等に周知できた。

#### 行政側

ボランティア・市民活動センターでの周知をしてもらうことで、多くの団体に周知することができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

市民活動団体が組織を運営していく上で必要としている内容を把握し、行政と十分な協議をして臨んでいきたい。

#### 行政側

NPO法人、市民活動団体向を対象に「開催してほしい講座についての」アンケート調査を行い、回答が多かった内容の講座を開催したことで、団体への支援につなげることができた。今後も講座内容について青梅ボランティア・市民活動センターと考えていきたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	「おそきだより」の発行	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年6月、9月、12月、平成30年3月 (年4回発行) 場所： 小曾木地区、小曾木市民センター
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成24年 月)
(2) 事業の目的	おそきだよりを発行し、小曾木地域のイベントや課題の情報を共有し地域の一体性を高め、地域振興対策を図るため、おそきだよりの発行をする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	若年層から高齢者まで地域情報を得やすい状況を作る
(4) 実施内容(実績値等)	情報誌の企画立案、取材調査、編集、発行。企画、取材活動を通じた地域課題、動向の理解。
(5) 事業経費(決算額)	198,288 円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： おそきの学校と地域を考える会 参加人数： 34名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民提案協働事業申請により採択された事業
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画、情報収集、編集、発行、配布  行政側： 経費の負担、編集、配布

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

地域課題を共有し地域の一体性を高める効果は、紙媒体を使い、全戸配布にすることにより高齢者まで高まることが、昨年実施したおそき全員アンケートでわかった。「広報おうめ」に近い周知度を確保していた。また、毎発行号をファイルし家庭に保存してくれているご家庭もかなりある。地域が主体となりながら協働で行われる好事例となっていると考える。

#### 行政側

協働で発行することで、行政だけでは行えない市民の身近な情報や地域の課題が掲載することができ、市民目線で地域の状況を伝えることができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

市内各地域が主体性を持って取り組みを行うような機運の醸成を図れるよう展開したい。

#### 行政側

地域に関する新しい情報を発信し、当情報誌の一層の充実を図りたい。また、他地域への波及効果を期待したい。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	ボランティア・市民活動紹介展	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	----------------	-----	--------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年6月7日～12日 場所： 中央図書館多目的室
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(      年      月)
(2) 事業の目的	青梅ボランティア・市民活動団体の活動状況を広く市民に紹介するため
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	ボランティア・市民活動団体の活動状況を紹介するとともに。活動参加へつなげていく。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅ボランティア・市民活動団体・福祉団体・施設・企業等の活動紹介と展示
(5) 事業経費(決算額)	

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅ボランティア・市民活動センター市社会福祉協議会 参加人数：
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	ボランティア・市民活動団体の活動状況を広く市民に紹介するため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 事業実施、広報活動（広報おうめ以外）  行政側： 作業実施のサポート、広報活動（広報おうめ）

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

・中央図書館多目的室を使用することができ、多くの方に来場いただけた。

#### 行政側

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

・2年連続の開催だったので、昨年も来場したという方も多かった。今後の実施は数年後に設定して開催したい。

#### 行政側

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課青梅市民センター
------	---------------	-----	-----------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回:平成29年8月4日 第2回平成30年2月27日 場所： 青梅市民センター多目的室
<b>2継続事業</b>	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年 月)
(2) 事業の目的	青梅市民センターの効果的な活用を検討する
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	センター利用率の向上および効果的な運営
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況・生涯学習事業実施状況・市民センターの運営等についての協議
(5) 事業経費(決算額)	青梅市民センター運営協議会謝礼金 90,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市自治会連合会第1支会・市立第一小学校PTA・センター利用団体・公募委員等 参加人数： 10名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市民センターの運営に関して協議する  行政側： 協議会の提案等により効果的な活用を図る

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
センターの利用状況や取り組みについて知ることができ、地域住民との相互理解に役立っている			
行政側			
市民センターの運営等について率直な意見を得られる良い機会となっている			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
新生涯学習施設(仮称)への青梅市民センター移行に伴う地域住民への影響について、運営協議会内でしっかり協議していきたい			
行政側			
運営協議会の意見を尊重し、青梅市民センターの新生涯学習施設(仮称)移行準備を進めていく			
事業の様子(写真等)			
なし			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課青梅市民センター
------	-------------	-----	-----------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年11月25日・26日 場所： 青梅市民センター
<b>2継続事業</b>	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年 月)
(2) 事業の目的	市民センターを利用する自主グループおよび地域の方で趣味等の作品展示、演技披露等により広く地域住民に紹介するとともに、市民センターを地域市民の交流の場、ふれあいの場として活用し、親睦の輪を広げる
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅市民センター利用自主グループの発表の場を設け、地域の住民相互の親睦を図る機会とする
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市民センター利用自主グループの作品展示、演技披露等(延べ来場者650人)
(5) 事業経費(決算額)	青梅市民センター文化祭消耗品 8,022円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	<b>2.事業共催</b>
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市民センター文化祭実行委員会 参加人数： 21団体
(3) 協働の提案者	<b>1行政からの提案</b>
(4) 協働の理由・きっかけ	自主グループの発表・交流の場を設け、親睦の輪を広げるため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	<b>1. 計画段階</b> その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 年5回の実行委員会に参加し、文化祭の内容について協議を行う 文化祭の準備・撤収を主体的に行う 行政側： 実行委員会の事務局業務を行う

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

市民側

図書館との新しい企画等、子どもたちが多く訪れるようになり、地域の親睦が深まったと実感している。

行政側

市民センターと利用団体との良い交流の機会となった。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

市民センターの部屋数に限りがあり、出展者が増えた時に対応が難しい。効果的なレイアウトを検討していきたい。

行政側

青梅市民センター文化祭で生まれたネットワークを、新生涯学習施設(仮称)へと引き継いでいけるよう、工夫していきたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター×利用サークル共催講座	担当課	市民活動推進課青梅市民センター
------	---------------------	-----	-----------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年9月～平成30年3月 場所： 青梅市民センター
<b>2継続事業</b>	※継続事業の場合、事業の開始時期( 29年 9月 )
(2) 事業の目的	①市民センター利用団体との共催講座を行い、サークル活動の活性化、センター利用率の向上を図る。 ②生涯学習の基礎づくりの一環として、誰もがいつでも学べる場を提供し、生きがい寿命を延ばす。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用サークルの活動活性化 青梅市民センター利用者および利用率の増加
(4) 実施内容(実績値等)	実施講座:①水彩画教室 ②パッチワーク教室 ③尺八体験教室 ④クラシックギター教室 青梅市民センター利用者数の変化…平成28年度:18,212人→平成29年度:26,054人(天ヶ瀬体育館を除く貸施設合計) 青梅市民センター利用率の変化……平成28年度:47%→平成29年度:64%(天ヶ瀬体育館を除く貸施設平均)
(5) 事業経費(決算額)	なし

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅水彩同好会・キルトの集いK・月曜クラブ・青梅ギターサークル 参加人数： 合計 79 人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	高齢化に伴うサークル会員数の減少、活動規模の縮小が目立っていたため、市民活動支援の一環として、協働による講座企画を立案した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： ①広報原稿、チラシ等の作成 ②当日の運営、必要物品の用意 ③講座後の継続参加の調整 行政側： ①広報の掲載、チラシの配布 ②会場の確保 ③申込みの受付、講座運営のアドバイス

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

### 市民側

事前の打ち合わせなどもしっかりと行うことができ、安心して講座を迎えることができた。特に広報の面で、多くの方に周知が届き、協働の効果が得られたと感じている。チラシやポスターも良質なものになった。

### 行政側

教える→教わるという、一方通行の学習とは異なり、サークルの人たちも含めて全員で学び、育みあう場となった。また、共催団体が講座終了後の継続希望者の受け皿となることで、スムーズな自主活動へとつながり、サークルの活性化にも効果があったと評価している。

また、サークルが講師役となるため、講師報償金が不要である点もこの講座の特徴である。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

### 市民側

講座実施の回数について、サークルの活動内容と合わせるようできると良い。例えば水彩画等は、複数回の体験が望ましい。

講座実施後もサークル運営について相談できるようになると良い。

### 行政側

青梅市民センターは平成31年度から、新生涯学習施設(仮称)へと移行する。平成30年度も多くのサークルとネットワークを育み、新施設でも引き続き、利用者と連携した施設づくりを行えるよう、取り組んでいきたい。

また、平成29年度は青梅市民センターの企画として実施したが、今後は他施設でも実施できるよう、市民センター同市の連携・情報交換を行っていきたい。

事業の様子(写真等)



①水彩画教室



②パッチワーク教室



③尺八体験教室



④クラシックギター教室



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	長淵市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 長淵市民センター
------	---------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 平成29年7月20日、 第2回 平成30年3月7日 場所:長淵市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	長淵市民センターの効果的な活用を検討する
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営について、地域の団体や市民が主体となって協議する(年2回)
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、住民票等交付状況、図書館利用状況、予算・事業等について
(5) 事業経費(決算額)	長淵市民センター運営協議会委員謝礼金 75,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:第二支会、二小、青少対第二支会、スポーツ推進委員、青少年委員、文化団体会員、調布ことぶき大学、公募委員 参加人数:10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: センター運営全般について協議する  行政側: センター運営全般について協議する

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して地域との相互理解に役立っていると思われる。</p>			
<p>行政側 市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して地域との相互理解に役立っていると思われる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 市民センターからの情報や委員同士の意見交換を通して、市民センターについて考えていく機会にしたい。</p>			
<p>行政側 運営協議会の意見等を尊重しながら対応したい。</p>			
事業の様子(写真等)			
無し			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	長淵地区文化祭	担当課	市民活動推進課 長淵市民センター
------	---------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 平成30年11月11日、11月12日 場所:長淵市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期( 年 月)
(2) 事業の目的	長淵市民センターを利用している自主グループおよび長淵地区において活動している個人や団体の発表の場、長淵地域の各種団体の出展により、地域コミュニティを推進し地域の活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	長淵市民センター利用団体および地域団体・個人の発表の場等を設けるとともに、住民の親睦を図る機会とする。
(4) 実施内容(実績値等)	長淵市民センター利用団体および地域団体・個人の発表の場等を設けるとともに、住民の親睦を図る機会とする。
(5) 事業経費(決算額)	支出額:48,983円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:長淵地区文化祭実行委員会 参加人数:33団体および個人出展8人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用団体および地域市民の発表の場創設
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 実行委員会での打合せ。文化祭会場等の設営および片付け。 行政側: 実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の提供。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

利用団体および地域団体・個人の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果がある。

#### 行政側

市民センターが身近に感じられる大きな要素と考えられる。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

発表の場所等のより良い会場づくり。

#### 行政側

参加団体、入場者数の増加方法の検討。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	大門市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	---------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 第1回(平成29年7月27日) 第2回(平成30年2月22日) 場所: 大門市民センター会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	大門市民センターの効果的な活用および適正かつ円滑な運営について協議をすること。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域の団体や利用団体が主体となった協議機関として、大門市民センターに置く機能や運営の仕方について協議し、市民センターの効果的な活用と運営を目指す。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの在り方についてや、大門市民センターの利用状況、住民票等の交付状況、文化展の開催等の行政との連絡や地域への情報発信等について。
(5) 事業経費(決算額)	95千円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 第二文会1名 スポーツ推進委員1名 子供会育成会1名 防災対策委員会1名 霞老壮大字1名 参加人数: 小学校長1名 保育園園長1名 利用者団体1名 公募委員2名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 地域の特性や住民ニーズに応じた市民センター運営と地域の市民活動団体の拠点としての活用に向けたセンターの運営全般について提言をする。 行政側: 提言をセンター運営に活用する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
<b>(11) 協働による効果</b>			
市民側			
市民センターの効果的な活用とサービスの向上について意見交換が出来た。要望を伝え易くはなったが、予算の関係から、要望が実現に結び付かない事項もあった。			
行政側			
市民センターが地域に密着している関係から、市民の声が行政に反映された。行政から地域へ向けた色々な情報の発信源として、市民センターが地域の拠点として有効な存在であった。			
<b>(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</b>			
市民側			
活発な発言が出来るよう相互の信頼関係をより深める。			
行政側			
市民センターをよりよく利用してもらうために、協議会の意見を尊重して運営に務めていく。			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	文化展	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	-----	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年11月18日・19日 場所:大門市民センター体育館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 年 月)
(2) 事業の目的	大門市民センター利用団体および地域住民の活動成果の発表の場とするのと、地域市民に活動を紹介することで市民センターを交流の場として、団体と住民との親睦の輪を広げる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動および地域住民の発表の場として
(4) 実施内容(実績値等)	利用団体と地域住民の作品を展示、発表する事と大門地域のふるさとまつりと同時開催する事の相乗効果で2,448人の観覧者が訪れた。
(5) 事業経費(決算額)	消耗品 5千円 パネル準備費 211千円(6センター協同)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 大門市民センター文化展実行委員会 参加人数: 294(参加団体加入者および実行委員長)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	利用団体の自主性の向上と活動の活性化を計る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 団体代表者が実行委員として会の運営に当たる。当日は参加者と行政側と共同で会場設営・撤去等を行う 行政側: 実行委員会を開催して協議を行なう。展示等に必要な消耗品を準備する。展示パネルの設営・撤去を行う。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 活動発表の機会を持ったことで、多くの市民に活動の成果を見てもらうことが出来た。展示に至るまでのプロセスを行政側と協同することで、意見を述べやすくなった。			
行政側 施設利用団の活動内容を把握し、利用者との交流を図ることが出来た。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 参加者の高齢化が著しく、活動を継続するのが難しくなっている団体があるので、発表の場を兼ねて新規の加入を促す活動を行う。			
行政側 設備の老朽化に伴い更新が必要とされている。 参加者の高齢化に対応した設備の更新を考慮する。			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	地域散歩	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間:平成30年3月24日 場所:大門地区	
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成23年2月)
(2) 事業の目的  地域に住む人同士の交流と親睦を図り、身近な地域の歴史を学ぶ。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等)  多くの市民が参加してもらうことによって、幅広い年齢層と交流し親睦を深める事が出来た。	
(4) 実施内容(実績値等)  霞川源流域から大門市民センターまでを散策しながら、話を聞くことで、地域の成り立ちから現代に至るまで歴史を学ぶ。	
(5) 事業経費(決算額)  7千円	

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態  2.事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名:霞川くらしの楽校 参加人数: 2名	
(3) 協働の提案者 1行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ  大門地域(霞川流域)を活動拠点としていたので、事業を実施したい旨を相談したところ、目的が合致したため。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階  その他の場合具体的に(	
(6) 役割分担  市民側: 講師との連絡調整 事前協議 当日の引率  行政側: 事前協議 広報等での周知と参加者募集 当日の資料準備と引率	

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
<p>地域で活動している団体なので、地域住民との交流と団体活動の内容を知ってもらうことによって団体への賛同者を得られる。</p>			
行政側			
<p>身近な地域の歴史と自然が題材なので、地域住民の興味を誘いやすく交流を図る機会となった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
<p>市民に活動を伝える機会となるので、より広い地域を対象として今後も協同事業を行いたい。</p>			
行政側			
<p>テーマや場所を替えながら、大門地域を広く知ってもらえるように協同事業を実施していきたい。</p>			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	梅郷市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 梅郷市民センター
------	---------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 平成29年8月31日(木)、第2回 平成30年3月9日(金) 場所： 梅郷市民センター会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	梅郷市民センターの効果的な活用等について検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営全般について、意見を求めるため、協議会を年2回開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの在り方について、市民センター利用および事業実施状況、出張所関係業務状況、図書館の状況等、行政との連絡や地域への情報発信等について。
(5) 事業経費(決算額)	梅郷市民センター運営協議会委員謝礼金 85,000円(第1回 5,000円×9人、第2回 5,000円×8人)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第四支会 1名、青少年対策梅郷地区委員会 1名、青少年委員 1名、スポーツ推進委員 1名、五小PTA 1名、青梅女性防火防災の会 1名、利用団体 2名、公募 2名 参加人数： 10人(男性7名、女性3名)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： センター運営全般について検討する。 行政側： 意見を市民センター運営に反映させるよう努める。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
市民センターの運営状況を知ることができ、また、地域住民や利用者からの意見等を行政に伝える場となっている。			
行政側			
市民からの率直な意見が得られやすい機会になっており、市民センターの運営等について要望等を得るうえで有益な場となっている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政からの情報提供や委員同士の意見交換をとおして、市民センターをよりよくするための意見交換の場として活用したい。			
行政側			
当協議会は形骸化しており、各市民センターで設置する必要性は薄いと考える。			
事業の様子(写真等)			
行政側からの情報提供に対し、市民側は理解を深め、良い意見交換が行われている。			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	梅郷市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 梅郷市民センター
------	-------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年11月12日(日) 場所：梅郷市民センター体育館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和55年11月)
(2) 事業の目的	地域の伝統や特性を生かし、生涯にわたる地域住民の多様な学習機会の成果を展示することで、地域の交流を促進し地域社会における主体的活動の活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	梅郷市民センター利用団体の発表の場等を設けるとともに、地域住民の親睦を図る機会とする。
(4) 実施内容(実績値等)	梅郷市民センター利用団体の作品展示、地域団体等による交流の場の設定。 平成29年度実績:出品数592点 観覧者数524人
(5) 事業経費(決算額)	文化祭実施のための消耗品等経費 88,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：梅郷地区総合文化祭実行委員会 参加人数：25人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	梅郷市民センター利用団体の発表の場を提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：文化祭実行委員会での打合せ、文化祭会場の設営および片付け 行政側：文化祭実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の準備

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

施設利用団体や地域住民の成果発表の場として、また、団体相互の親睦、地域住民の交流の機会として効果がある

#### 行政側

施設利用者の活動成果の発表の場作りにおいて市民側との意見交換ができ、団体・地域住民の交流、親睦に効果がある

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

施設利用団体、地域住民の活動成果発表の場としてのより良い会場づくり

#### 行政側

参加団体および入場者数増の方法の検討

### 事業の様子(写真等)

#### 別添資料のとおり



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	沢井市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 沢井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 第1回 平成29年9月8日 第2回 平成30年3月16日 場所: 沢井市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	沢井市民センターの効果的な活用を検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市の事務、地域団体の事業に対し、多くの意見を寄せてもらい、意見が活かされるよう努める。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、施設整備状況、主催行事、関係団体の行事について報告および協議
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営経費 支出済額 55千円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 第5支会支会長(1)、自治会長(1)、スポーツ推進委員(1)、消防団団長(1)、高齢者団体(1)、PTA会長(1)、沢井市民センター利用団体代表者(2)、公募委員(2)。委員定数10人。 参加人数: 9月8日の出席者は6人。3月16日の出席者は5人。
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 各種の立場から、市民センターのよりよい運営に向けた助言を行う。 行政側: 助言を活かし、市の事務、地域団体の事務に可能な限り反映させる。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 行政に対し、要望等を提供しやすくなった。			
行政側 率直な意見を直接聞けるため、センター運営に反映できる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 市民センターをよりよくするための意見交換の場として、これからも一層活用する。			
行政側 現状および情報提供を積極的に行い、意見集約の一つとして、市民センターをさらに良くすることを課題とする。			
事業の様子(写真等)			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	三田地区総合文化祭	担当課	市民活動推進課 沢井市民センター
------	-----------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間:平成29年11月12日(日) 場所:沢井市民センター	
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和54年11月)
(2) 事業の目的	地域住民の文化意識の向上を図る。出品・出演者同士の協力作業などによる住民同士の触れ合い、趣味発見の機会を提供する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	来場者数700人の確保。演技の披露と住民間の交流に成果を上げる。
(4) 実施内容(実績値等)	文化系団体作品展示、演技発表、農産物共進会、農産物即売、共催団体作品展示。
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営経費 支出済額 20千円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:「第5支会」約10人。「清涼会」(老人会)約10人。「西東京農協」約10人。沢井市民センター利用団体約200人参加。 参加人数:809人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用日土グループの作品・演技、また農産物をより人々の目に鑑賞・観覧していただくため、農産物即売会による集客力との相乗効果を期待しつつ、交流を広げることを目的に事業を協働することとなった
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階  その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 主催者会議、事前説明会、会場準備、当日の運営協力、展示または出演、片づけ  行政側: 主催者会議、事前説明会、会場・必要物品の確保、開催通知、会場設営・進行管理・片づけ

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

発表の場が広がることで活動の励みになり、連帯意識も高まる。市民センター利用者との交流に発展するきっかけとなる。

#### 行政側

事業を共催することで集客効果がある。事業を通して関わることで、日ごろから市民との距離感も縮まる。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

若い世代の参加および来場者が少ない。

#### 行政側

市民センター利用団体も高齢者が多いので、若い世代を集客する工夫が必要。子育て中の親子の市民センター利用が比較的多いので、興味を示す催しが必要。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	小曾木市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 小曾木市民センター
------	----------------	-----	----------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 8月 4日(金) 第2回 2月 22日(木) 場所： 小曾木市民センター 会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 20年 4月)
(2) 事業の目的	小曾木市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	小曾木市民センターの運営を適正・円滑に行いかつ効果的な活用を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	小曾木市民センターの利用状況、図書館の利用状況、平成29年度の予算の概要、市民センターの教室・文化祭等について
(5) 事業経費(決算額)	運営協議会委員謝礼金 90,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 自治会連合会第6支会3人、青少年委員1名、民生委員1名、市民センター利用団体2名、 公募委員2名 参加人数： 延べ 18人 (第1回目 9人 第2回目 9人)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センターの運営と地域の市民活動団体等の拠点としての活用に向けて市民センターの運営全般について提言する。 行政側： 地域の発展に向けて市民センターのあり方について検討する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
住民や施設利用者の意見や要望を伝えることができ、かつ、運営状況が掴めた。			
行政側			
率直な意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映させることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政のさらなる情報提供による利用者の率直な意見や要望の聞き取り。			
行政側			
当協議会は、設置から10年が立ち、運営も固定化していきいるので、個々の市民センターで設置する必要性は薄いと考える。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	小曾木地区文化祭	担当課	市民活動推進課 小曾木市民センター
------	----------	-----	----------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年11月11日、12日 場所:小曾木市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センター利用団体や地域住民、小・中学生の活動の成果として作品を展示すること等により市民に紹介し、地区の連携、コミュニティの醸成を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動発表の場を設け、団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏等の紹介、小・中学校総合学習の成果発表、農産物の展示、販売を行った。
(5) 事業経費(決算額)	市民センター利用団体で組織する文化祭実行委員会の参加負担金で運営している。 平成29年度支出額 46,853円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：小曾木地区文化祭実行委員会 参加人数:参加団体19団体、一般観覧者669人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センターで活動中のサークルの発表の場や地域住民の作品の展示発表を設ける。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会での検討、作品の取りまとめ、文化祭当日の会場準備、作品の展示片付け 行政側： 文化祭実行委員会の開催準備から文化祭の周知、会場事前準備・片付け等

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 市民センター利用団体や地域住民(福祉施設入居者も含む)の成果の発表、相互理解、地域の親睦、つながりが深まる。			
行政側 行政と市民とが協同して文化祭を実施するなかで、市民にとって市民センターがより身近な存在となる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 市民センター利用団体および文化団体が高齢化等の理由から解散や参加を取り止めるなどにより、参加者が減少傾向にあり、何らかで参加者等を増やす方法を検討していきたい。			
行政側 土地柄を生かした農業者振興会による農産物の展示販売が人気が高いので是非続けたい。 六中吹奏楽部による演奏は、会場が野外(市民センター駐車場)であるため、他の催しとの関係や、天候により会場が変わることがあるが、続けて行きたい。 これからも、より多くの方に参加していただけるよう努めていきたい。			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	成木市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年8月2日、平成30年3月7日 場所：成木市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期( H20 年 4 月)
(2) 事業の目的	センター運営を適正、円滑にすすめる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用を検討する。
(4) 実施内容(実績値等)	平成29年度市民センター予算執行状況・センターの在り方について・平成29年度センター生涯学習事業の実施状況・センター利用状況・図書館利用状況について・平成30年度市民センター予算の概要・平成29年度成木市民センター生涯学習事業の実施予定について
(5) 事業経費(決算額)	成木市民センター運営協議会委員謝礼金 90,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第7支会、第七支会体育振興会、第7支会防災対策委員会、成木地区教育環境等研究会、施設利用団体のスポーツ団体・文化団体、青少年委員、公募委員 参加人数：10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センター運営と、地域市民活動団体等の拠点としての活用に向けて、市民センターの運営全般について提言する 行政側： 地域発展に向けて、センターの在り方を検討する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 センターの運営状態が良く分かった			
行政側 センターのあるべき姿について、率直な意見をいただき市民の要望等を得やすくなった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 センターの利用がもう少し多くなると良いと思います			
行政側 委員の意見を尊重し市民センターの運営をしていきたい。			
事業の様子(写真等)			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	成木地区文化祭	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年11月11日、12日 場所：成木市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期( H17 年 6 月)
(2) 事業の目的	市民センター利用団体や地域住民、小中学生の活動状況を作品を展示すること等により市民に紹介し、地区の連携、コミュニティを図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動支援と地域の結びつき
(4) 実施内容(実績値等)	センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介、小学校総合学習の成果発表、農産物の販売
(5) 事業経費(決算額)	56千円(55,481円)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：成木地区文化祭実行委員会 参加人数：29団体
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	センターで活動中のサークルの発表の場や、地域住民の作品の展示発表を設ける。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会での検討、文化祭当日の会場の準備、作品等の作成および展示片付け  行政側： 文化祭実行委員会開催準備から文化祭の周知、会場事前準備等

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

利用団体や地域住民の成果の発表、相互理解、地域の親睦、つながりが深まる。

#### 行政側

行政と市民が一体となり推し進めることで、市民センターが、より身近な存在となる。  
より親しみやすい市民センターへ

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

文化祭の規模拡大への方法として、周知方法や子供の参加方法を考慮すべき

#### 行政側

土地柄を生かした農業者振興会による農作物の展示即売が人気が高いのでぜひ続けたい。  
地域住民の作品集めには、早い時点での働きかけが必要。これらから、より多くの方に参加していただけるよう、今後も努めていきたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	東京ヒルクライムNARIKIステージ(自転車競技)	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------------------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年5月28日 場所：成木市民センター～常盤林道
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(2007年8月19日)
(2) 事業の目的	恵まれた自然を活用し環境保全と健康づくりを目指す。また、地域間交流と地域の一体感を深める
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	目標参加人数500名 自転車競技に参加選手の安全確保と地域の親睦
(4) 実施内容(実績値等)	ヒルクライム(自転車で山道や坂を上る)競技 成木市民センターをスタートし、常盤林道終点をゴール地点として目指す
(5) 事業経費(決算額)	市予算なし

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第7支会・(社)里仁会・KFCトライアスロンクラブ 参加人数：252名(レース参加者(棄権等除く))
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地域の一体化を図るため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：開催準備、交通整理、受付、撤収  行政側：準備品用意、交通整理

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

市民側

相互理解、地域の親睦、つながりが深まる

行政側

行政と市民が一体となり進めることで、地域間交流と地域の一体感が深まった

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

競技の規模拡大への方法として周知方法や、参加者の増加に向けて駐車場の確保などが必要

行政側

駐車場や交通手段の確保、競技の安全確保

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	東青梅市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	----------------	-----	----------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 平成29年8月3日 第2回 平成30年3月1日 場所： 東青梅市民センター第1会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	市民センターの効果的な運営や活用方法を検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営全般を協議するため、運営協議会を年2回開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	東青梅市民センターの概要・利用状況、住民票等交付状況、予算・事業等について
(5) 事業経費(決算額)	東青梅市民センター運営協議会委員謝礼金 100,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第八支会1名、青梅市スポーツ推進委員1名、青少年対策第八支会地区委員会1名、東青梅老壮大学1名、センター利用団体からスポーツ団体1名、女性防火防災の会1名、青梅市青少年委員1名、NPO法人青梅こども未来1名、公募委員2名 参加人数： 延べ20名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市民センター運営のあり方を検討する。  行政側： 市民からの提言を市民センター運営に反映させるよう努力する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
行政に対し、利用者の視点での意見や要望を伝えることができた。			
行政側			
市民の代表から率直な意見が聞けるため、市民センターの運営に反映することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
市民センターをより良くするための意見交換の場として今後も活用していく。			
行政側			
これまでは利用者側の意見等を運営協議会で集約し、その役割を果たしてきたが、最近は形骸化してきている。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	東青梅市民センターコミュニティ文化祭	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	--------------------	-----	----------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年10月28日(土)、29日(日) 場所：東青梅市民センター体育館および和室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和57年 月)
(2) 事業の目的	市民センター利用者などの文化活動の成果を発表する機会を設け、地域の文化活動の発展や交流をより一層図っていく。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民の文化活動の成果を発表し、市民相互の親睦を図る場とする。
(4) 実施内容(実績値等)	東青梅市民センター利用団体および個人の作品等の展示、演奏、実演。 作品数 575点および48曲 観覧者 1,051人
(5) 事業経費(決算額)	文化祭実施にかかる消耗品費 24,267円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：東青梅市民センターコミュニティ文化祭実行委員会 参加人数：29名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	各種団体の発表の場の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：会場配置図等の検討、会場の設営・片づけおよび観覧者受付等を行う。  行政側：展示用具等の提供を行う。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

作品や演舞等、自分たちの活動を多くの市民に見ていただく場をつくることができました。

#### 行政側

各参加団体の活動について理解を深めることができた。また、お互いに意見交換をすることにより市民が満足できるような場の提供ができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

提供された場所をさらに利用しやすくするために、レイアウトや表示を工夫する。

#### 行政側

参加団体、来場者のさらなる増加を図るため、同時開催の第八支会ささえあいフェスティバルとも連携していく。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	第八支会ささえあいフェスティバル	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	------------------	-----	----------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年10月28日、29日(27日は市民センター文化祭の準備およびフェスティバル出展作品の展示) 場所：東青梅市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成28年10月)
(2) 事業の目的	第八支会と第八支会関連団体および管内小中学校、保育園、ボランティア団体等と連携して、地域の自治会活動の活性化を図るとともに、東青梅市民センター文化祭と同時開催することにより文化事業の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	1 新たな視点(小中学校・保育園との連携、地域活動団体の紹介)での自治会活動を見直し、これからの活動につなげる。 2 来場者の増加を図り、文化祭を充実する。(センター事業のPR、文化団体の活性化)
(4) 実施内容(実績値等)	1 小中学生、保育園児、自治会員有志による作品の展示(小中学校 8校・保育園 4園 16自治会) 2 安協、青少対の活動紹介(安協 綿菓子 青少対 おしるこの配布) 3 青梅警察署防犯係・地域の安全を守る会(振り込め詐欺・窃盗に対する注意呼びかけ) 4 農産物・焼きそばの販売(各自治会長) 5 障がい者支援団体、ボランティア団体、NPO法人の活動紹介および物品販売(出店・出品団体 8団体) 6 センター利用サークルの演技披露(フラダンス、キッズダンス)(出演 3団体:雨天のため1団体辞退) 7 保育園児の鼓笛演奏披露(オープニング演奏:かすみ保育園)
(5) 事業経費(決算額)	事業経費は第八支会負担。東京都の「地域の底力発展事業助成金」を活用 事業総額 1,001,019円 収入額 都助成金 750,000円 模擬店売上 93,951円 その他 116,500円 事業総額－歳入合計＝1,001,019円－960,451円＝支会負担額 40,568円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会第八支会 参加人数: 28日 7人 29日 26人 (27日 21人)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成28年に創立50周年を迎えた第八支会が、新たな視点での自治会活動を目指すこととしたため、行政(事務局)としても連携を強化し、さらに地域の活性化を実現するため。あわせて市民センター文化祭と合同開催とし、来場者増加の相乗効果を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 1 フェスティバル参加団体等への依頼および進行、運営管理 2 自治会加入促進活動 行政側: 1 フェスティバル会場の提供、運営補助 2 地域の底力発展事業助成金の申請および実績報告

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

地域の各種団体とのつながりが構築され、見える自治会活動を実施できた。このことにより地域の活性化を図ることができた。

#### 行政側

地域自治会の活性化につながる事業を、ともに実施したことにより、市民センターが身近な施設であることを地域に周知され、利用率の向上が期待できる。また、市民センター文化祭の来場者が増加し、地域文化団体の活性化を図ることができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

- 1 地域の次世代に目を向ける必要がある。
- 2 各種団体・学校との連携が図れたことにより、今後の活動の中でどのように活かしていくかが重要な課題である。

#### 行政側

- 1 地域の拠点施設として、地域活動団体(自治会を含む)との連携を図るための課題整理。
- 2 自治会活動(防災・防犯活動を含む)の自主性(見える活動)を尊重し、後方支援の在り方を整理する。
- 3 この事業により、地域の活性化を図る必要から、若い世代(次世代)を取り込む事業となることを検討する。

### 事業の様子(写真等)



台風接近の大雨の中で実施

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	親子で楽しくファミリーゲーム体験会	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	-------------------	-----	----------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成30年3月31日 場所：東青梅市民センター和室
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(      年      月)
(2) 事業の目的	地域団体を講師とし、子育て世代を支援する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	親子の触れ合いを築くとともに家族で楽しめるゲームの普及を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	開催時間内での自由参加のボードゲーム体験会とし、親子・友達・参加者同士楽しむゲームを実施。 (参加人数 31人)
(5) 事業経費(決算額)	講師報償金 6,000円 補助講師 3,300円    計 9,300円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：NPO法人青梅こども未来 参加人数：講師 1人 補助講師 1人 ボランティア 3人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	家族との触れ合いを育む事業を実施するに際し、同団体が推進している活動内容と一致したため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 教室の運営およびスタッフの確保、ゲームの提供など  行政側： 講師料の負担、場所の提供、広報など

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

- 1 自由参加の教室であったため、少ない時間でも参加者がいて、みんなで楽しめるゲームの普及につながった。
- 2 祖父母・孫という家族の参加があったことにより、今後の子どもの居場所・子育て支援活動の参考となった。
- 3 団体の子育て支援の在り方の一助となった。

#### 行政側

子育て団体と連携できたことにより、センター事業のさらなる拡充を図ることができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

- 1 市民センターで実施できたことは、次につながる。多くのセンターでも活動できるように計画する。
- 2 父子参加が少なかったので、団体としても事業周知を図る。

#### 行政側

子育て支援に限らず、多くの市民活動団体と手を組み、センター事業を充実していく必要がある。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	新町市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	---------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年8月17日(第1回)、平成30年3月1日(第2回) 場所： 新町市民センター会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期( 20年 4月)
(2) 事業の目的	新町市民センターの適正かつ効果的な活用の検討
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	新町市民センターの利用利便性および利用率の向上を図る
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、施設整備状況、センター実施事業等について報告・協議を行うとともに、センター文化祭の実施計画及び役割分担等について協議する。
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営協議会委員謝礼金 85,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：自治会連合会第9支会2名、青少年対策新町地区委員会1名、青梅市スポーツ推進員1名、小学校PTA1名、中学校PTA1名、 利用団体代表2名、市民公募2名 参加人数： 委員定数10名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に( )
(6) 役割分担	市民側： 市民センターの運営について検討・協議するとともに、実行委員会の中心として、センター文化祭について企画運営を行う。 行政側： センター事業の実施状況について報告するとともに必要な情報の提供に努め、運営協議会での協議検討結果を運営に生かす。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
地域住民や施設利用者の意見を行政に伝え、運営に生かすことができた。			
行政側			
市民センターの運営等について地域や利用団体等からの様々な意見や要望を聞くことにより、センター運営に資することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
これまで以上に利用しやすい市民センターとなるよう、意見要望してくとともに具体的改善策などさらに積極的に関わっていくことが必要と思われる。			
行政側			
地域や利用団体からの意見集約とその反映は重要であるが、近年協議会がやや形式化してきていると考えられ、各市民センターごとの設置の必要性も含めて検討すべきである。			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	新町市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	-------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 平成29年11月11日～12日 場所： 新町市民センター本館および体育館	
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期( 年 月)
(2) 事業の目的 新町市民センター利用団体などの文化活動の発表の場として、地域の文化活動の発展を図るとともに地域住民の交流とコミュニティ活動の活性化を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 地域住民等の文化活動の成果発表の場として、またふれあいの場として文化祭によりセンターに来館し活動することにより、地域住民の交流による地域コミュニティの活性化を図る。 数値目標： 参加団体20団体、体育館入場者数 2日間合計750人	
(4) 実施内容(実績値等) 作品展示、舞踊・演奏・詩吟等の演技、模擬店および地元農産物等の販売など 実績： 参加団体数 25団体、個人参加4人、 体育館入場者数 2日間合計 776人	
(5) 事業経費(決算額) 支出決算額 82,133円(消耗品費、パネル運搬費、文化祭用白布等洗濯代等)	

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：新町末広町地区市民文化祭実行委員会 参加人数： 47人	
(3) 協働の提案者 1行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 新町市民センターを活動拠点とする文化団体等の発表の場として実施	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に( )	
(6) 役割分担 市民側： 実行委員会を組織し、主体的に文化祭の企画・運営を行う。 行政側： 実行委員会事務局として運営にかかわるとともに、文化祭の周知及び機材等の準備を行う。	

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

各団体や地域住民が活動状況を発表する場として有効であるとともに、文化祭に参加することにより地域の交流が図られている。

#### 行政側

地域の方々の自主的な運営により、事業が柔軟かつ円滑に実施されている。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

参加団体の固定化や高齢化もあり、一部マンネリ化している。地域の活性化のためにも、参加者の範囲、規模の拡大が求められる。

#### 行政側

参加者、来場者がより楽しめる文化祭とすべく、新規団体の開拓を行うとともに、新たな視点による実施等が求められる。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめこどもエコクラブ共催事業	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	-----------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年4月15日、5月28日、8月6日、12月16日、30年2月17日 場所： 新町市民センター、12月16日は武州工業株式会社見学
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期( 20年 4月)
(2) 事業の目的	日本環境協会こどもエコクラブ登録団体のおうめこどもエコクラブと共催で市内の子供たち及びその保護者を対象として講座を開設し、自然環境保護等について楽しく学ぶ場の提供を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	楽しくエコ、自然環境保護等について体験講座や見学会を通じて学ぶ 目標：年間6回程度実施、参加者述べ120名
(4) 実施内容(実績値等)	体験講座4回、市内企業見学会1回実施(他におうめこどもエコクラブ独自事業3回) 述べ参加者 131人
(5) 事業経費(決算額)	おうめこどもエコクラブが負担(材料費等実費の一部について参加者から徴収)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：おうめこどもエコクラブ 参加人数： 講師、スタッフ 5回述べ23名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	おうめこどもエコクラブの新町市民センター利用による、講座開催のための施設利用申し込みをきっかけに、年間を通じた子供向けのエコに対する講座を開催し、地域活動の活性化にもつなげる。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に( )
(6) 役割分担	市民側： 体験講座、見学会等の企画、運営  行政側： 体験講座、見学会の周知、PR及び会場確保等

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

子供のころから自然環境保護を考えるの取り組みとして体験講座を開催するにあたり、行政と共同することにより、会場確保がスムーズに行えたとともに、周知PRについてより広く周知することができた。

#### 行政側

地域の子供たちを中心に自然環境保護の大切さを勉強するとともに、他地域からの子供保護者の参加も多く、センター事業の拡大にもつながっている

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

さらに楽しく学べる講座や見学会に取組、参加者の拡大を図るとともに、開催地域の拡大の検討も必要と思われる。

#### 行政側

楽しく学べる場としての体験講座をさらに充実するとともに、エコや事前環境保護について地域の子供たちや保護者に対しても広く周知を進めていくことが必要とされる。

第1回  
エコってなんで必要?



第2回  
エコなアートで飾っちゃおう



第3回  
野菜を無駄にしないエコなクッキング



グ

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	河辺市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 河辺市民センター
------	---------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 平成29年6月22日(木)、第2回 平成30年2月27日(火) 場所： 河辺市民センター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的	市民センターの効果的な活用方法の検討
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの利用率の向上と効果的な活用
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、住民票等証明発行事務の状況、子育て広場の利用状況、河辺市民センター文化祭等に関する報告と意見交換
(5) 事業経費(決算額)	河辺市民センター運営協議会委員謝礼金 90,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第10支会役員2人、高齢者クラブ代表1人、小学校PTA1人、地区青少年対策委員会1人、スポーツ推進委員1人、震災第1住宅代表1人、民生児童委員1人、公募委員2人 計10人 参加人数:延べ18人(第1回10人、第2回8人)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2.実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市民センターの効果的な活用方法の提案、協力 行政側： 協議会意見等にもとづき市民センターの運営に活用する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
市民センターと地域団体、住民、市民センター利用者との交流・意見交換の場となり、意見等を行政に伝えることができた。			
行政側			
市民センターと地域団体、住民、市民センター利用者との交流・意見交換の場となり、意見等を得るうえで有益であった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政からの情報提供や委員の意見交換をとおして、市民センターへ効果的な活用方法を検討する。			
行政側			
各協議会において意見交換は行っているが、同様のことの繰り返しとなっており、各市民センターで設置する必要性は薄いと考える。			
事業の様子(写真等)			
なし			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	河辺市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 河辺市民センター
------	-------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年10月21日(土)、22日(日) 場所： 河辺市民センター体育館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和61年11月)
(2) 事業の目的	市民センターの利用団体の活動状況を広く市民に紹介し、活動への参加を促すとともに、地域住民の作品展示や舞台発表を行うことにより、河辺地域のコミュニティの醸成を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センター利用団体の発表の場を設け、地域住民の親睦を図るとともに地域コミュニティの醸成を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介および第10支会、青少年対策第10支会地区委員会、食育クラブ等の模擬店出店 2日間の延参加者数 1,337人
(5) 事業経費(決算額)	文化祭実施のための消耗品等経費 12,142円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 河辺市民センター文化祭実行委員会 参加人数： 29人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センターで活動中のサークルの発表の場を提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 参加団体呼びかけ。日程調整、会場確保。作品展示場所・舞台発表プログラム作成。許認可申請手続き。広報。 行政側： 会場準備、片づけ。来場者受付。駐車場管理。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

市民センターを拠点とする団体や地域住民の発表の場ができ、多くの方に見てもらうことができた。

#### 行政側

場を提供することにより、利用者とのコミュニケーションが図られた。  
市民センターの存在を参加団体や出品者を通じ、広く市民に周知することができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

市民センター利用団体、地域住民のより多くの参加、発表すること。  
参加者の高齢化による力仕事を伴う準備、片付けが負担となってきた。

#### 行政側

参加団体、地域住民参加の増加

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	今井市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回（平成29年7月5日）、第2回（平成30年2月23日） 場所： 今井市民センター会議室
<b>2 継続事業</b>	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成20年4月）
(2) 事業の目的	今井市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	今井市民センターの運営を適正・円滑に行いかつ効果的な活用を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	今井市民センターの利用状況、平成29年度の予算の概要、今井市民センター文化展等について
(5) 事業経費(決算額)	運営協議会委員謝礼金 85,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	<b>1.政策立案・事業企画等に参加</b>
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 自治会連合会第11支会2人、青少年対策第11支会地区委員会1人、スポーツ推進委員1人、女性防火防災の会第11支部1人、保育園園長1人、今井市民センター利用団体2人、公募委員2人 計10人 参加人数： 述べ17人（第1回9人、第2回8人）
(3) 協働の提案者	<b>1 行政からの提案</b>
(4) 協働の理由・きっかけ	今井市民センター運営協議会設置要綱による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	<b>2. 実施段階</b> その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市民センター運営のあり方を協議・検討する。 行政側： 必要な情報を提供し、協議・検討内容を市民センターの運営に活用する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
地域住民や施設利用者からの意見や要望を行政に伝えることができた。			
行政側			
市民センターのあり方等について意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映させることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政のさらなる情報提供による利用者の率直な意見や要望の聞き取り。			
行政側			
当協議会は形骸化しており、各市民センターで設置する必要性は薄いと考える。			
事業の様子(写真等)			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	今井市民センター文化展	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	-------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年11月4日（土）、5日（日） 場所： 今井市民センター体育館、和室
<b>2 継続事業</b>	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成13年11月）
(2) 事業の目的	今井市民センター利用団体の活動成果を地域市民に紹介するとともに、市民センターを交流の場、ふれあいの場とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動発表の場を設け、団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	利用団体メンバーの作品の展示や発表を行い、519人の観覧を得た。
(5) 事業経費(決算額)	文化展実施のための消耗品費      11,988 円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	<b>2.事業共催</b>
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 今井市民センター文化展実行委員会 参加人数： 述べ159人
(3) 協働の提案者	<b>1 行政からの提案</b>
(4) 協働の理由・きっかけ	利用団体の活動の活性化を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	<b>1. 計画段階</b> その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会により会場の配置図等を作成し、自治会長の協力を得ながら、各団体で会場を設営する。 行政側： 会場の確保と展示用具等を提供する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

活動発表の機会を協働で行ったことにより、多くの市民に活動成果を見てもらうことができた。また、チャリティー作品販売の売上金を社会福祉協議会に寄付できた。

行政側

施設利用団体の活動内容の把握と交流を図ることができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

市民センター利用団体のより多くの参加、出展、発表

行政側

出展、発表者へのより良い環境づくり。

事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	市民ウォーキング	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	----------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成30年1月28日（日） 場所： 藤橋・今井地区の霞川遊歩道と立正佼成会内の桜並木通り
<b>2 継続事業</b>	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成20年1月）
(2) 事業の目的	市民の体力増進、健康保持と合わせ霞丘陵の自然を観察しながら、地域の連帯と異年齢層の交流、親睦を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	体力増進、健康保持を目的として藤橋、今井地区の霞川遊歩道および立正佼成会内の桜並木通りを中心に歩く。多くの市民が参加することにより、地域コミュニティの進展につなげる。
(4) 実施内容(実績値等)	霞丘陵ハイキングコースを予定していたが、残雪の影響により参加者の安全を考慮し、本コースの実施を断念し、「残雪を楽しもう」と題し、代替えコースに変更して実施した。91人参加。
(5) 事業経費(決算額)	支出なし（青梅市自治会連合会第11支会体育振興経費より支出）

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	<b>1.政策立案・事業企画等に参加</b>
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市自治会連合会第11支会 参加人数： 青梅市自治会連合会第11支会 39人、スポーツ推進委員2人
(3) 協働の提案者	<b>1 行政からの提案</b>
(4) 協働の理由・きっかけ	市民の体力増進、健康保持と合わせて霞丘陵の自然を観察しながら、地域の連帯と異年齢層の交流、親睦を図る。第11支会を中心に参加者を集い、地域と住民相互の親睦を深める。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	<b>1. 計画段階</b> その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： コースの実踏、第11支会各種団体への参加要請、開会式、閉会式の進行、ウォーキング中の運営、おしるこ・コーンスープの調理配布等 行政側： コースの検討と資料等の作成、消耗品の購入、準備品の用意等

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

市民側

市民の体力増進、健康保持と合わせ、残雪の上を歩くことを楽しみ、より地元を身近に感じるとともに、参加者相互の親睦を図ることができた。

行政側

行政と地域との親睦と協力を深めることができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

より多くの参加者の確保と交通安全の徹底。

行政側

次年度以降の実施に向けた新たなコースの検討。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	第52回青梅マラソン大会	担当課	スポーツ推進課 スポーツ推進係
------	--------------	-----	--------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年2月18日(日) 場所:10キロの部 東青梅四丁目～日向和田(折返し)～青梅市役所前 30キロの部 東青梅四丁目～川井(折返し)～青梅市総合体育館前
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(1967年3月)
(2) 事業の目的	①参加者の競技力向上と走ることを楽しむ場の提供 ②外国選手を含む参加者間の親睦、交流およびボランティア等も含めた大会関係者間の地域交流を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	参加者(定員19,000人)を募集し、安全なマラソン大会を運営する。
(4) 実施内容(実績値等)	ロードレース ①10キロの部 ②30キロの部 ③ジュニアの部
(5) 事業経費(決算額)	ボランティア用の帽子 :@460円×1720個=791,200円(税抜き) ボランティア弁当 :@498円×2,935個+16,812円(おしぼり等)+9,584円(配送費)=1,488,026円(税込) ボランティアコート :@1,150円×2000枚=2,300,000円(税抜き) ※いずれも一般財団法人青梅マラソン財団からの支出、市の支出はなし。

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市スポーツ推進委員協議会、一般社団法人青梅市体育協会、自治会、ボーイスカウト、青梅交通安全協会、青梅市陸上競技協会(主催団体の一つなので事業共催)など 参加人数: 2,619人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	参加者、沿道の人出が非常に多い大会であり、よりスムーズな大会運営を行うために、広範囲の人々の協力を求めた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(青梅市陸上競技協会は主催団体の一つなので「1. 計画段階」)
(6) 役割分担	市民側: 競技運営、観衆を整理するコース整理員や給水係、レース後のコース清掃など 行政側: 大会の企画、各種申請等の届出、競技運営など

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	2
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

第52回大会を通じて、マラソンに関心のなかつた市民もランナーの頑張る姿、またボランティアの広範な活動等を見て、マラソンって素晴らしい、自分も参加してみたいと市民意識を盛り上げている。

#### 行政側

多くのマラソン大会参加者を市民、行政が一体となって受け入れる体制を作ること、市民が主体となったまちの活性化イベントのひとつとなっている。大会ボランティアや観客の方が、沿道からあたたかい応援がもらえると参加者からの多くの声をいただいております、青梅市のPRという意味でも大きな役割を果たしていると考えられる。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

全国的に多くのマラソン大会が行なわれ、ランナーが大会を選べる時代になった。時代に乗り遅れない大会運営をしていく必要がある。現在マラソンコースがせまいという問題もあるが、ランナーが楽しく走れるよう考えていきたい。

#### 行政側

- ① ボランティアの割り当て(役割分担、配置場所)の再検討
- ② ボランティアへの救命講習会の実施等、医務救護体制の強化
- ③ テロ等、非常時を想定した連絡体制・警備体制の見直し

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめ環境フェスタ2017	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年6月1日(木)～6月30日(金)(5月31日(水)は市庁舎ロビー準備) 場所:6/4、6/25市役所 6/1～6/30市庁舎ロビー 6/1～6/30中央図書館 6/10霞川周辺 6/11青梅の森
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年3月)
(2) 事業の目的	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと
(4) 実施内容(実績値等)	環境関連団体、企業、事業者、教育関係者等による展示、ワークショップなど
(5) 事業経費(決算額)	126,773円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ環境市民会議、おうめ環境フェスタ2017実行委員会、ボランティア等 参加人数:100名程度
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成20年度におうめ環境市民会議から協働提案を受け協議開始
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業原案、会場設営、展示物提供、ワークショップ・当日の運営全般、講師の選任・依頼等 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、会場、事業予算の確保等

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	3
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

市民側:環境政策課との協働で6月の環境月間を1ヶ月間フェスタ期間とすることが今年で3年目になるが、非常に良く運営することが出来た。中央図書館環境図書コーナー、市役所ロビーなどは一ヶ月連続で展示できた。次年度もよりよい形で協働事業として発展することを願っている。

行政側:6月4日に実施した環境体験学習イベントでは、初めて市役所の本庁舎を会場としたが、昨年度を大きく超える方達にご来場いただいた。今回の実績をもとに、今後も引き続き本庁舎で実施していきたい。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側:ごみ分別ゲームで毎年清掃リサイクル課の参画があるのは高く評価したい。環境部長、環境政策課長以下政策課担当職員は精一杯努力していただいたが、フェスタのイベントごとに、他の係職も分担されて、管理係のみに負担が偏らないように環境部長が配慮していただきたい。もっと市を挙げて充実した環境フェスタに取り組む体制をとっていただきたい。またフェスタ以後の出展者の生の声が聴ける反省会を次年度も設ける必要がある。フェスタで回収した生のアンケートは今回に限り市民会議が要求しても見せてもらえなかったが、何故なのか疑問が残る。次回からは担当者の中で読み合わせをやるぐらいの余裕が欲しい。

行政側:6月4日に実施した環境体験学習イベントでは、初めて市役所の本庁舎を会場としたが、会場として使用した西側ロータリーと2階会議室のうち、2階会議室の方に来訪者が訪れないといった声が寄せられたため、来訪者の誘導について検討したい。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめ環境ニュースの発行	担当課	環境政策課管理係
------	--------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間:平成30年3月15日発行 場所:市内の新聞を取っている世帯および戸別配布を希望した世帯	
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年6月)
(2) 事業の目的 一般市民が広報誌を通じ ①青梅市と周辺の自然環境について見識を深められるようにする。②市民生活や企業活動の環境への影響や地球環境との関わりを理解できるようにする。③自然環境・生物多様性の保全に向かえるよう市民啓発をすること。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民の半数以上が目にとめ、そのうち半数以上が内容に関心を持つ、そのうちの半数およそ全市民の8分の1以上の環境意識の向上に寄与すること。	
(4) 実施内容(実績値等) タブロイド版全4ページ:カラー印刷、 *1ページ「メインテーマ:里山の環境とホタル、環境フェスタ予告」 *2・3ページ続きの紙面に青梅市と周辺環境・奥多摩の山から東京湾までの多摩川を図解 「美しい自然のふるさと青梅、森林の役割・海とのつながり、河川ごみの海洋生物への影響、市の上下水道と多摩川、地球規模の渡り鳥・回遊魚、ホタルの一生、外来種の影響、市のごみ処理の仕組みと最終処分場」 4ページ:環境政策課「ポイ捨て・歩きたばこ・飼い犬のふん放置防止へ協力呼びかけ」	
(5) 事業経費(決算額) 397,966円	

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態 2.事業共催	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名:おうめ環境市民会議 参加人数:8人	
(3) 協働の提案者 2団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成19年度におうめ環境市民会議から協働提案を受け協議開始	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(	
(6) 役割分担 市民側: 記事の作成、イラスト作成、レイアウト原案 行政側: 記事の作成、編集、印刷業者との調整、印刷費等の予算確保	

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

印刷等の手配を行政側が行うことで原稿作成に労力を集中できた。  
市の広報と同時に同じルートで配布することで全戸配布でき、信頼性を確保できた。

#### 行政側:

市民団体と協働で編集を行うことで、市民感覚を取り入れた市民目線の発行物を作成できたと考える。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

環境保全意識の啓発につながる内容確保と表現の向上。  
目をひく写真や紙面構成等のデザインの向上。

#### 行政側:

市民感覚を取り入れるといったコンセプトに対して、一定の成果はあったと考えているが、より多くの方々に読んでいただけるような工夫が一層必要である。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	クールビズ運動	担当課	環境政策課 管理係
------	---------	-----	-----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年5月1日～平成29年9月30日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 21 年 月)
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの冷房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	1, 274円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「クールビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: クールビズの実践 行政側: 企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

市民側

行政側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、クールビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

行政側

クールビズについては、周知されつつあると感じているが、市全体として取り組むべき内容であるため、今後も意識啓発のための事業を継続し、浸透に努めたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	みんなで打ち水！	担当課	環境政策課 管理係
------	----------	-----	-----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年8月6日～平成29年8月12日(打ち水ウィーク) ※7月20日と8月8日に打ち水実施 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 21 年 月)
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの冷房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	0円(クールビズポスターに打ち水についても記載しているため、それを活用した。)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡充を目的に、平成21年に市内の各種団体、事業者が一同に会する環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「打ち水」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 打ち水の実践  行政側: 企画と周知活動(ポスター掲出、広報等のメディア展開)

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

市民側

行政側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。打ち水運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上を図りたい。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

行政側

広報やホームページで周知する他に、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、一定の啓発はできたと考えるが、今後においても、更なる周知啓発を行い、市民や事業者等市全体を巻き込んだ事業の展開に努めたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	ウォームビズ運動	担当課	環境政策課 管理係
------	----------	-----	-----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年11月1日～平成30年3月31日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 21 年 月)
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	1,274円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「ウォームビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: ウォームビズの実践 行政側: 企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

市民側

行政側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとり環境意識向上のために周知啓発をはかる必要がある。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

行政側

継続的な周知啓発が必要である。今後も啓発物品(卓上のぼり旗)やポスターを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	エコドライブ運動	担当課	環境政策課 管理係
------	----------	-----	-----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 21 年 月)
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、保有車両のエコドライブを通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	0円(ウォームビズ・エコドライブポスターにエコドライブについても記載しているため、それを活用した。)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体および趣旨賛同団体 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「エコドライブ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: エコドライブ運動の実践 行政側: 企画と啓発物品(ステッカー)の配布、広報等のメディア展開

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

市民側

行政側

環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。エコドライブ運動は、温暖化対策だけではなく、マナーアップにもつながる運動である。市民1人ひとり環境意識向上に役立てたい。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

行政側

エコドライブは決まった10項目の取組みがある。温暖化対策、マナーアップの両面から、さらなる周知啓発に努めたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	みどりのカーテン事業	担当課	環境政策課管理係
------	------------	-----	----------

### 1 事業の内容


(1) 実施期間および場所	期間:平成29年4月15日～10月28日(募集の事前告知から表彰式まで) 場所:西東京農業協同組合かすみ直売センター、青梅ガス株式会社本社
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	市内の一般家庭を対象にみどりのカーテンモニターを募集。地球温暖化防止のため、家庭でできる省エネの取り組みとして、みどりのカーテンづくりを紹介し、育成のためのゴーヤの苗を配布している。また、葉を上手に育成することが遮熱効果等を高めるため、配布時に育成方法の指導を実施している。育成後は、一般家庭および事業所を対象に、みどりのカーテンコンテストを実施、優秀者を賞するとともに、成果を啓発目的に広報・ホームページ等でフィードバックし、活用している。
(5) 事業経費(決算額)	21,632円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅ガス株式会社、西東京農業協同組合 参加人数:20人程度(表彰式出席者、審査員、表彰式会場関係者等)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅ガス(株)から環境・地域貢献協力の申し出を受け、行政側からみどりのカーテンコンテスト事業を提案、合意した。その後、青梅ガス(株)を介して西東京農業協同組合も加わり、三者の協働事業として実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:副賞代、消耗品、表彰式会場等の提供および審査協力 行政側:周知活動(広報・ホームページ)および受付等の事務、表彰式会場運営協力

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側:3団体が独自チャンネルを使い広報することで広いセグメントの市民にみどりのカーテン事業の内容が周知されている可能性があり、環境保全意識高揚と省エネルギーを意識した暮らし方の伝播浸透に貢献しているものと考えている。</p>			
<p>行政側:みどりのカーテン事業全体を通して、行政側、市民側がそれぞれ広報することで、より多くの市民に、より広く周知できた。また、みどりのカーテンコンテストの実施は、みどりのカーテン育成の周知啓発につながったと考える。受賞作品選定において、JA西東京の専門家の審査協力を得られたこと、青梅ガス(株)のお客様感謝祭を利用したオープンな表彰式も事業を充実させるものとなった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側: (11)の反面、コンテスト応募者の高齢化、固定化が顕著。若～中年層の取り込み策を具体化していきたい。審査基準変更もしくは若～中年層向けの対象賞新設の検討(副賞選定と予算見直し含む。)、市民に投票してもらいコンテストへの関心を高める仕組み等を基に今後の応募につなげる施策が必要と考えている。 例) 市ウェブサイトまたはFacebookやinstagramなどSNSを利用した得票審査/フォトジェニック要素等</p>			
<p>行政側:みどりのカーテン事業全体を通して、参加者の固定化がみられるため、今後は募集の方法や内容を変更するなどして、新たにみどりのカーテンに取り組む家庭、団体を増やすよう検討したい。</p>			
事業の様子(写真等)			
			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	ガサガサ水辺の探検隊 ～達人と一緒に楽しく安全な川遊び教室～	担当課	環境政策課管理係
------	-----------------------------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年7月9日(日) 場所:市民球技場周辺の河原
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年9月)
(2) 事業の目的	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。
(4) 実施内容(実績値等)	川での安全な遊び方教室、魚のつかみどりから焼いて食べるまで、川の生き物捕獲等
(5) 事業経費(決算額)	296, 100円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数:11名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。  行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5

### (11) 協働による効果

#### 市民側

市民側では企画、運営および小学校との連携を主な役割とした。

行政側は予算、広報やライフジャケットなどの準備を行った。広報に関しては写真付きで大きく載せることで大きな宣伝効果、集客に繋がった。一般申込の受付を行政側で行い、荒天順延時も行政側から申込者に順延の旨を連絡し、大きなユーザトラブルなく、対応できた。

#### 行政側

当日までの間に行われた準備作業や、関係者との調整、周知活動等、団体の行動力には目を瞠るものがあり、またそれらの結果として、多くの子どもたちに自然体験をしてもらい、協働による効果はかなりあったと考える。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

子ども達がカッターナイフで魚をさばくとき怪我しないように、必ず親子でさばくことを徹底する。魚を焼く数が大変多いので火傷、熱中症に気をつけること。

これまで開催判断を前日のみ実施していた。今回のように前日の時点で開催を判断し、当日の朝に荒天となった場合、「何時までに開催判断を行うか」「順延と判断した場合にどのように連絡を取り合うか」など改善を実施した。

#### 行政側

今回は当初7月1日を予定していたが、荒天により順延となり、そのためか、昨年より若干参加者が減少した。

こういった順延による参加者の減小への対策として、今後は、イベント周知をより早く実施し、事前に順延した際の予備日の出欠も確認するなどして、順延した際もできる限り出席者数が減らないように努めたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	多摩川まるごと遊び塾 ～水辺はぼくらのワンダーランド～	担当課	環境政策課管理係
------	--------------------------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年9月10日(土) 場所:市民球技場周辺の河原と管理棟前広場
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年7月)
(2) 事業の目的	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育むことを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育むことを目的とする。
(4) 実施内容(実績値等)	ライフジャケット等を用いた安全教室、水棲生物の捕獲と観察、移動水族館(多摩川の魚の展示)等
(5) 事業経費(決算額)	244,475円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数:10名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	おうめ環境市民会議水辺チームから協働提案があったことを契機に、平成19年度から協働を行っている、「ふるさとの川プログラム」の親水事業の拡大にとまない、現在の形に移行。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

市民側では企画、運営および小学校との連携を主な役割とした。

行政側は予算、広報やライフジャケットなどの準備を行った。広報に関しては写真付きで大きく載せることで大きな宣伝効果、集客に繋がった。一般申込の受付を行政側で行い、荒天順延時も行政側から申込者に順延の旨を連絡し、大きなユーザトラブルなく、対応できた。

#### 行政側

当日までの間に行われた準備作業や、関係者との調整、周知活動等、団体の行動力には目を瞠るものがあり、またそれらの結果として、多くの子どもたちに自然体験をしてもらい、協働による効果はかなりあったと考える。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

川に設置した脚立から子ども達がジャンプするとき、脚立がぐらつかないように徹底する。

水棲生物を捕獲・観察してきた池に「先戸池」という名称を付けたが、その名称をどのように定着させるか検討が必要。

先戸池は絶滅危惧種も生息する貴重な自然環境であり、種の保護や環境の保全の必要性を参加者に理解してもらう必要がある。

#### 行政側

荒天により順延し、当初の開催予定日より遅くなってしまったこともあってか、参加者数は昨年より若干減少した。こういった順延による参加者の減小への対策として、今後はイベント周知をより早く実施し、事前に順延した際の予備日の出欠も確認する等して、順延した際もできる限り出席者数が減らないように努めたい。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	がんばれ！あゆっ子2017 「稚鮎の放流と多摩川生物の生態系調査」	担当課	環境政策課管理係
------	--------------------------------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年5月14日(日) 場所:釜の淵公園鮎美橋上流の河川敷
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成18年5月)
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	稚鮎の放流、多摩川の鮎の話、安全な川遊び紙芝居、ヤマメのつかみ取り
(5) 事業経費(決算額)	81,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人奥多摩川友愛会 参加人数:14名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。  行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

多摩川の天然アユの存在を市民に理解してもらい、それを守ることが豊かな市民生活に係ることを理解してもらった。また、川に生息する生物から石に至るまで、会員の持っているノウハウを子供たちに理解してもらおうことが出来たのも大きな成果と考える。市との協働事業という事でより良い環境での事業が行えた。

#### 行政側

市民にとって身近な多摩川における現状と、天然鮎の遡上といった、普段耳にすることのない課題を、子どもたちに説明し、考えるきっかけを作る意義は大きいと考える。また、会の持つマンパワーと豊富な経験は、当日の運営に安定感を与えている。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

江戸前アユを青梅の多摩川に生息させることを目標に掲げているので、この時期一般では見られない本物の江戸前アユを市民に見せることに重点を置きたい。さらに江戸前アユを放流出来るように関係機関にも話をかけていきたい

#### 行政側

当日は、釜の淵新緑祭と同時開催であるため、参加者以外の来場者も多い。今後も引き続き視野を広くもって、安全管理に留意することを希望する。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	第9回炭焼き体験と水辺の交流会	担当課	環境政策課管理係
------	-----------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年8月23日(火) 場所:奥多摩フィッシングセンター横、美しい多摩川フォーラム「御岳の森」
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成23年8月)
(2) 事業の目的	炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	竹炭作り、魚のつかみ取り、ライフジャケット浮力体験等
(5) 事業経費(決算額)	259,200円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:美しい多摩川フォーラム 参加人数:6名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、当該事業は平成23年度から開始した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業のプランニング、NPO 法人日本エコクラブ等との調整および当日スタッフとして運営に当たる。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

青梅市共催は市民に安心感を与え、青梅市報に募集記事を掲載すると、短期間で定員を超えた。また、ライフジャケットの貸出や、当日のスタッフとしてご協力をいただくなど、共同による効果は絶大であった。

#### 行政側

内容、運営体制ともに安定感がある。同団体が所有管理する炭焼き窯を利用した炭焼き体験と、周辺の自然豊かな川での自然体験をミックスした内容は、環境学習としての密度も高い。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

当日の運営に際しては、経験のある指導員を十分確保し、安全には万全を期しているが、今後も事故には細心の注意を払って臨みたい。弁当などのゴミについては、各自で持ち帰りを徹底し、引き続きゴミの少量化に努めていく。

#### 行政側

事業の細部まで行き届いているが、夏場の水辺での事業になるため、更なる安全面の徹底をして、より良い事業展開が出来たらと考えている。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	親子魚釣り教室2017 (自分で釣った魚はおいしいね!)	担当課	環境政策課管理係
------	---------------------------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年11月19日(日) 場所:奥多摩フィッシングセンター
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年10月)
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	溪流釣りの未経験の参加者に、釣りを通した自然体験をしてもらうと同時に、奥多摩川友愛会会員の講義指導を通じ、河川環境保護の重要性等も説明した。
(5) 事業経費(決算額)	193,400円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人奥多摩川友愛会 参加人数:10名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成21年度から協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。  行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

市との協働事業により備品等の供与も受け、参加市民をより良い環境のもと指導できたと思う。生きているものを釣りあげ食べることにより、魚たちに人が生かされているという事を伝えようとしている事業であり、より良い学習環境を整えてくれる協働事業はととても有難く、事業の成果も上がった。

#### 行政側

協働団体の持つマンパワーは、当該事業にも十分に発揮されており、指導者の経験も人材も豊富である。このことは、当該事業の安全管理および参加者への対応も十分になされるということであり、行政だけでは不十分な点を協働団体がフォローする、理想的な形といえる。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

この時期避けて通れない台風での順延など自然による障害に対してより市民の理解を得るような対応方法も検討していきたい。また、この時期ならではの自然の美しさを参加者に満喫してもらうよう内容を検討していきたい。

#### 行政側

今回は台風等による2回の順延を経ての開催となったため、昨年度よりも参加者は若干少なかった。ついては、今後こうした順延の場合の対応について検討していく必要があると思われる。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	じゃぶじゃぶ川であそんじゃおー	担当課	環境政策課管理係
------	-----------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年7月8日(土) 場所:市内を流れる霞川・藤の木橋と天本橋の間
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年9月)
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	身近な霞川をフィールドとした自然体験(水遊び、魚捕り、ザリガニ捕り、散策など)
(5) 事業経費(決算額)	42,900円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数:5名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成24年度から霞川に棲む生きものにスポットを当てた事業として提案があり、実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。  行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

終局的な目的は、いつでも川に入り、遊べる川になることである。また、広く霞川を知ってもらうことも目的の一つである。その点からしても協働事業として良いと思う。

#### 行政側

子どもたちが自由に参加でき、貴重な体験を提供できるイベントとしてとても有意義なものであった。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

荒天で一週間延期での開催であったためか、参加者が非常に少なかった。今後延期の時などの広報の仕方に工夫が必要である。また解放地区が狭いと、後から参加した人たちが川に入っても生き物(主にお魚)を捕まえる機会が少なかった。今後はもう少し広いエリアを設定し時間によってエリアを区切るなどの対策が必要と思われる。

#### 行政側

荒天により、順延しての開催だったためか、前年に比べ参加者が大きく減少してしまったことから、順延となった場合の対応について検討する必要があると考える。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	いかだで遊ぼう in 霞川(Part9)	担当課	環境政策課管理係
------	----------------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年7月22日(土) 場所:市内を流れる霞川・藤の木橋と天本橋の間
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年8月)
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	手作りいかだに乗って川下り、青梅消防署の指導のもとでの水難救助の体験
(5) 事業経費(決算額)	100,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数:9名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

子ども達も楽しそうに遊んでいる。このような遊びはどこでも出来るものでもない。協働事業にふさわしい企画であると思う。

#### 行政側

事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。  
また、水難救助指導もやっており、非常に有益な事業であった。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

この事業の大敵は暑さである。熱中症に十分な対策が必要。

#### 行政側

夏場の水辺での事業になるため、安全面の徹底がより一層必要である。また、さらに多くの子どもたちに事業に参加してもらうための工夫が必要であると感じた。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	かすみ川で遊ぼう お魚つりに挑戦	担当課	環境政策課管理係
------	---------------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年10月14日(土) 場所:市内を流れる霞川・藤の木橋と天本橋の間
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成24年9月)
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	霞川での釣りの体験指導、釣れた魚の説明。
(5) 事業経費(決算額)	27,400円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数:4名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成24年度から霞川の新たな親水事業として提案があり、実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。  行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

今年は雨の日が多く、当日も雨模様、応募者の集まりは悪く9名しか参加しなかった。条件の悪い中での釣りに応募者も気乗りがしないのであろうか。それでも参加者は楽しそうに釣り糸をたれ、釣果は上々であった。幅広く募集をかけるのには「広報おうめ」での募集は必要だと思う

#### 行政側

参加者が楽しんでいた光景を見ると、いかに川で遊ぶことの楽しさを求めているかが伺えた。また、参加者全員が何らかの釣果を得られ、満足して帰られたのは幸いであった。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

募集の時小雨決行の案内を出すのが、今回の状況からしてむしろ延期等の方が良いように思う。

#### 行政側

当日はイベントの開催も危ぶまれるような、雨天一步手前の曇り空での開催となったためか、事前に申し込まれた参加者で、特に連絡も無く欠席された方が多くおり、今後そうした場合の対応について考慮する必要があると思われる。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	飼い主のいない猫の合同里親会	担当課	環境政策課管理係
------	----------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年6月24日(土)、平成29年11月11日(土) 場所:青梅市役所西側(正面玄関前)
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年5月)
(2) 事業の目的	責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。
(4) 実施内容(実績値等)	市内の複数のボランティア団体による合同里親会を、市と協働で実施する。
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:いのちを考える会・青梅、青梅にゃんにゃんサークル「WISH」、おうめ猫の会 参加人数:9人(6月)、15人(11月)
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成25年度から新たな事業として提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 当日の運営  行政側: 広報等による周知、会場準備

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

広く市民に里親会をPRできた。  
また、里親会により市民に飼い主のいない猫問題を見てもらうことができた。

#### 行政側

ボランティア団体との協働事業により、飼い主のいない猫の里親探し事業を多くの市民にPRできたと思う。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

普段は室内で里親会を行っている猫なので、天候などによる猫への配慮が必要になる。

#### 行政側

事業の内容については、ボランティア団体と事前の打ち合わせを密にすると共に、過去の実績なども考慮して調整していきたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	動物愛護週間イベント in おうめ	担当課	環境政策課管理係
------	-------------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年9月16日(土)～平成29年9月30日(土) 場所:青梅市役所本庁舎1Fロビー(正面玄関脇)、中央図書館多目的室ほか
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成24年11月)
(2) 事業の目的	隔年ごとに実施する動物愛護に関する講演会または映画会や動物愛護に関する展示を通じて市民への動物愛護の啓発を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	隔年ごとに実施する動物愛護に関する講演会または映画会や動物愛護に関する展示を通じて市民への動物愛護の啓発を行う。
(4) 実施内容(実績値等)	東京都動物愛護相談センターの職員による動物愛護についての講演会を実施したほか、事業に参加したボランティア団体の活動紹介等に関する展示を行った。
(5) 事業経費(決算額)	0円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅にゃんにゃんサークル「WISH」、おうめ猫の会 参加人数:6名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成24年度から新たな協働事業として提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 活動紹介等に関する展示ブースの設営  行政側: 広報等による周知、会場準備

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

団体の活動を広く市民にPRできた。

#### 行政側

ボランティア団体と協働で実施することで、動物愛護や市内の猫の問題について、広く啓発できると共に、各団体の活動内容も紹介することができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

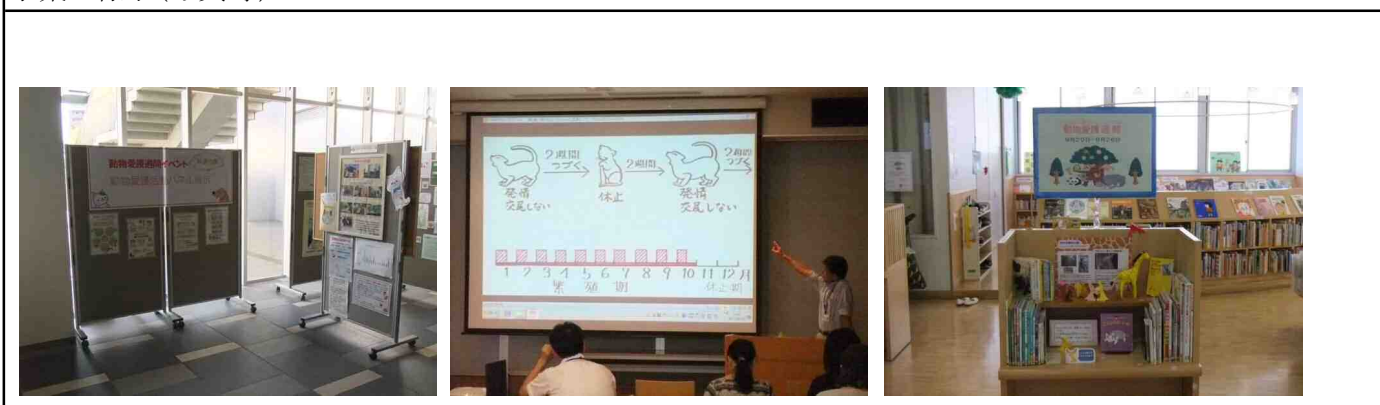
#### 市民側

展示スペースを広くしてもらいたい。  
猫の写真を増やすなどの展示方法の改善。

#### 行政側

行政側の展示物について、今後もう少し内容を充実させたい。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	さくらねこ無料不妊手術事業	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間:平成29年4月1日(土)～平成30年1月31日(水) 場所:市内各所	
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年12月)
(2) 事業の目的 公益財団法人どうぶつ基金から受領した「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」を使用し、市内の飼い主のいない猫を捕獲、不妊去勢手術を施行し、捕獲した場所に戻す。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市内の飼い主のいない猫に「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」を使用し、不妊去勢手術を施行することで、市内の飼い主のいない猫の数を抑制する。	
(4) 実施内容(実績値等) 「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」を使用し、市内の233頭の飼い主のいない猫に不妊去勢手術を施行することができた。	
(5) 事業経費(決算額)  0円	

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名:いのちを考える会・青梅、青梅にゃんにゃんサークル「WISH」、おうめ猫の会 参加人数:	
(3) 協働の提案者 2団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」行政枠ができることがわかったため。	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(	
(6) 役割分担  市民側: 猫の捕獲、動物病院への運搬、捕獲した場所に戻す  行政側: 公益財団法人どうぶつ基金へ、「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」の申請、実施報告	

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

チケットを使用することで、市民は無料で飼い主のいない猫に不妊去勢手術をすることができた。

#### 行政側

行政ではできない捕獲、不妊・去勢手術をボランティア団体とともに実施し続けたことにより、以前より飼い主のいない猫に関する市への相談が減った。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

チケットがいつまで続くかが不透明である。

#### 行政側

平成30年度から「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」の交付についての要綱を新たに施行したため、行政とボランティア団体との連携をより緊密に行っていく必要がある。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	「ごみ収集カレンダー」の音声化事業	担当課	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	-------------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日 場所:特になし	
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期( 23 年 4 月)
(2) 事業の目的  視覚障害者等の一人一人に、青梅市における正しいごみの排出日について点字版を作製し周知する。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等)  申込希望者5人	
(4) 実施内容(実績値等)  平成30年度版「青梅市ごみ収集カレンダー」の音声版(デージー図書)の作製。視覚障害者等への周知、希望者への配布。実績5人。	
(5) 事業経費(決算額)  1,512円(音声用CD-R)	

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態  3.事業協力	
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名:朗読ボランティアグループみすず会 参加人数:11人	
(3) 協働の提案者 2団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ  朗読ボランティアグループみすず会からの提案	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階  その他の場合具体的に(	
(6) 役割分担  市民側: CDに音声データを収録し、行政側に提供する。  行政側: 広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へダビングしたCDを配布する。	

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

リサイクル・ごみ分別に関する情報を視覚障害者に提供することができ、青梅市のごみ減量の一助になったと考えている。

#### 行政側

視覚障害者向けとして点字版のカレンダーも作成、配布しているが、点字はかなり勉強しないと読むことができなく、読める方は視覚障害者の1割程度とのことである。それに対し、音声版では、CDを専用の機器またはパソコンで読み込めば簡単に聞くことができ、より多くの視覚障害者が利用できる。

また、利用者からもごみの分別排出にとっても助かっているとの声もある。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

今年度は当初2地域3利用者、その後1利用者の追加。数日後1地域1利用者の増があり、利用者は5件になった。5件については、CDのレーベル印刷、点字表示を記入しみすず会で作成。また、収集品目が大幅に変更になり、変更内容をわかりやすくCDの中に入れた。今後資源リサイクルハンドブックも大幅に追加、変更されたので新しいハンドブックの音訳作成が必要です。

#### 行政側

さらに多くの方に使用していただけるよう周知、広報する。

また、ハンドブックの内容も変わっているのでそちらの音訳版作成も検討していきたい。

なお、協働先団体より高齢化等を理由に平成30年度版カレンダーをもって、本協働事業を終了したいとの申し出があった。カレンダーの音訳については平成31年度以降は委託にて対応したい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	生ごみ堆肥化(ダンボールコンポスト)事業	担当課	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	----------------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 講習会: 平成29年5月12日、13日、8月5日 勉強会: 平成29年6月17日 場所: 講習会: 市役所玄関前ロータリー、2F喫茶コーナー横テラス、2F会議室 勉強会: 2F会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期( 23 年 4 月)
(2) 事業の目的	家庭から排出される生ごみをダンボールコンポストを利用して堆肥化し、ごみの減量化と資源の再生利用を図るとともに循環型社会の形成を促進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	モニター申込み希望者計100人
(4) 実施内容(実績値等)	参加者に対して家庭で簡単にできる生ごみ堆肥化方法を直接指導し、その後、勉強会等でフォローする。これにより生ごみの減量、資源化を促進する。参加者計32人。
(5) 事業経費(決算額)	68,350円(ピートモス、もみ殻くん炭等消耗品)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 青梅・生ごみグルグルネット 参加人数: 5人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	ごみ減量に生ごみ堆肥化は有効な施策であること。 また、市内に堆肥化を実践しているグループであったことから、協働事業を開始した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階
	その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 講習会・勉強会の進行  行政側: 広報おうめ、市ウェブサイトによる周知、消耗品等の準備・会場設営

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

講習会を行えば毎回参加者はあり、勉強会にも講習会参加者の半数近くの参加があり、少しずつだが生ごみの減量につながっていると思われる。

#### 行政側

毎年コンスタントに応募があり、アンケート回答でも多くの方が継続したいと考えており、生ごみの減量、資源化に有効な事業である。

また、小中学生向け講習会も開催していることから、環境教育の観点も効果があったと考える。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

夏休みの親子講習会は多数のチラシをまく等工夫したが、参加にはつながらなかった。子どもに対しての講習もとても大事だと思うので残念であった。

#### 行政側

内容的にも参加者の年齢層に偏りが出ている。より多くの年齢層に関心を寄せてもらえるようなPR方法を検討していく必要がある。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	「ごみ収集カレンダー」の点訳事業	担当課	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	------------------	-----	---------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年4月1日～平成30年3月31日 場所： 特になし
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期( 23 年 4 月)
(2) 事業の目的	視覚障害者等の一人一人に、青梅市における正しいごみの排出日について点字版を作製し周知する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	申込希望者5人
(4) 実施内容(実績値等)	平成29年度版「青梅市ごみ収集カレンダー」の点字版の作製。視覚障害者等への周知、希望者への配布。実績4人。
(5) 事業経費(決算額)	4,155円(点字プリンター用紙)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅点訳グループ 参加人数:7人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	ごみ収集カレンダーを点訳できるグループであったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1 計画段階    2 実施段階    3 その他 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 点字版の資料を作製し、行政側に提供する。 行政側： 広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へ配布する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

### (11) 協働による効果

#### 市民側

希望する人に期限までに作成し、届けることが出来た。

#### 行政側

視覚障害者の中で点字を読める方にとって有益である。  
また、視覚障害者で点字を勉強しており、良い教材にもなっているとの意見もある。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

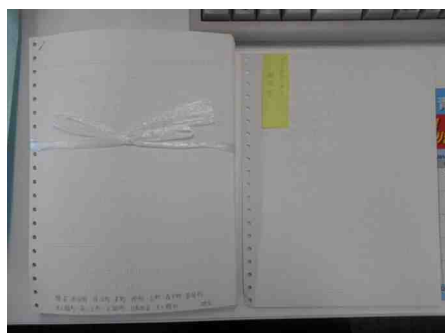
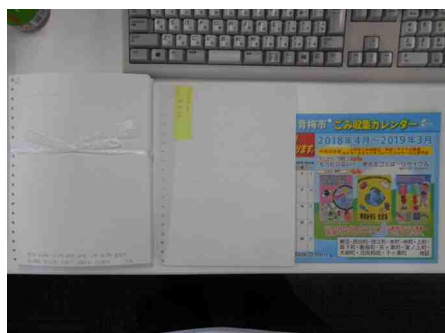
#### 市民側

- ・変更点が出た場合には、点訳して視覚障害者の方に提供したい。
- ・必要とする利用者が他にもいるのではないかと思いますので、周知を徹底してほしい。

#### 行政側

点訳グループおよび利用者の意見を聞き、問題点については改善に向け努力していく。  
さらに多くの方に使用していただけるよう、新たな周知方法の検討等も含め広く周知、広報する。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市見守り支援ネットワーク事業	担当課	高齢介護課高齢者支援係
------	------------------	-----	-------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日 場所:市内一円
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年5月)
(2) 事業の目的	市では、一人暮らし高齢者等の見守りを充実させるため、地域における見守りを強化し、何か異変を感じた際には市や関係機関などに連絡をいただき、市や関係機関では安否確認等を行い、市民の安心安全を図ることを目的としています。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民に安心安全を提供するとともに、孤立死、孤独死等の減少を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	市内で活動する事業者等が、事業活動に際して行う地域に住む高齢者等のゆるやかな見守りを実施することで異変を早期に発見し、市や関係機関と連携することで早期の対応を図る。
(5) 事業経費(決算額)	見守りネットワーク連絡会食糧費 3,600円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 見守り協定締結事業者 参加人数: 35事業者
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	協定締結事業者は市内で事業を行っており、地域における高齢者等の社会的弱者と接する機会も多いため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 地域でゆるやかな見守り活動を実施し、異変を感じた場合、市や関係機関に情報提供する。 行政側: 情報提供を受けた案件について、関係機関等と連携し安否確認を実施する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 民生委員や地域において活動する事業者がゆるやかな見守り活動をすることで、見守られている側の高齢者等の地域住民も安心感があり、地域の中で安全安心に生活が営める環境が整う</p>			
<p>行政側 民間事業者等との協力により、行政だけでは困難であった地域密着による見守り活動について、民間事業者等が主体となり見守り活動を実施したことにより、地域力の強化を図ることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 民生委員に依頼される業務が多くあり、見守り活動に取り組む時間が少なくなっている。 見守りが必要な対象者を精査し、より効果的な見守り活動を行うことが必要と考える。</p>			
<p>行政側 地域住民との連携をさらに充実させていくことが重要であるため、民間事業者等のほか地域住民も含めた見守り体制の充実が求められている。</p>			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	担当課	高齢介護課 包括支援係 担当 吉田 (2127)
------	--------------------	-----	-----------------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年9月から11月 3か月間 場所： 市内の自治会館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成19年 月)
(2) 事業の目的	地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加し、その予防効果を検証するための健康づくりモデル事業を実施することにより、自発的な介護予防に資する組織の育成・支援を行うとともに地域における介護予防事業を普及推進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	上記(2)事業の目的に同じ
(4) 実施内容(実績値等)	1. ウォーキング等介護予防の効果があると認められる事業の実施 2. 事業の実施に伴う予防効果の検証 3. 検証結果の広報活動等
(5) 事業経費(決算額)	平成29年度支出済額179,334円(消耗品)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 高齢者クラブ(3か所) 参加人数： 117人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成18年4月介護保険法が改正され、介護予防の推進を図るため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 会員への周知、会場準備 行政側： ウォーキング教室の実施。ウォーキング前後の運動機能測定(握力、開眼片足立時間、5m歩行速度)

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側                      地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加し、その予防効果を検証される。また、自発的な介護予防に資する組織が育成され、地域における介護予防事業が普及促進される。</p>			
<p>行政側                      健康づくりの意識、体力、高齢者クラブの様子など地域の情報が得られ、事業の企画、実施の参考となる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側                      高齢者クラブの加入者があまり増えない。特に前期高齢者が少ない。                      事業終了後も高齢者クラブとして体力測定の実施を継続して行いたい。</p>			
<p>行政側                      介護予防が必要な前期高齢者についても対象にしたい。                      事業終了後も高齢者クラブとして体力測定の実施を継続するように働きかけを行いたい。</p>			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	認知症サポーター養成研修事業	担当課	高齢介護課包括支援係
------	----------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年4月1日～平成30年3月31日 場所： 指定場所
	1単年度事業、2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成19年10月)
(2) 事業の目的	認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりを目的としている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	平成34年までにサポーター数を1万人を目標す。
(4) 実施内容(実績値等)	平成29年度までのサポーター数4,174人
(5) 事業経費(決算額)	H29年度 テキスト代 歳出 92,950円 歳入43,775円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 全国キャラバンメイト連絡協議会 参加人数： 青梅市登録キャラバンメイト 57人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	都が企画立案および講師役(キャラバンメイト)を養成し、事業に賛同しサポーターを養成している。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 認知症のことを正しく理解し、認知症の人やその家族の方を温かく見守り支援する応援者となる。 行政側： サポーター養成講座を養成するための講師(キャラバンメイト)を派遣する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

市民側:認知症という病気について理解し、対応のポイントや、どのように接すればいいのかを理解することができた。

行政側:認知症の人も地域で安心して暮らせる充実したまちづくりが形成される。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側:自治会や企業、高齢者を扱う事業所で広く開催し、理解を深めたい。

行政側:市役所や学校にて講座を行い、さらなる受講者を開拓したい。

### 事業の様子(写真等)

H30年度から小中学校にて開催し、認知症について理解を促す。



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	介護サービス相談員派遣事業	担当課	高齢介護課包括支援係
------	---------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年4月1日～平成30年3月31日 場所： 市内の特別養護老人ホームや老人保健施設・事業所および居宅
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成14年1月)
(2) 事業の目的	市に登録された介護相談員(公募)が、介護が行われている場を訪問し、利用者からの相談を受けて、サービス提供事業者や行政に橋渡ししながら問題の改善や介護サービスの質の向上を図ることを目的としている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	介護相談員の問いかけ通して、身体拘束ゼロへの取組みや虐待防止への取組を進める。
(4) 実施内容(実績値等)	55施設、3居宅、142回、567人
(5) 事業経費(決算額)	非常勤職員報酬 1,127,445円、旅費 28,782円、研修費 180,360円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 介護サービス相談員 参加人数： 5人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成12年度に介護保険制度がはじまり、行政による措置から事業者との契約に移行したことを受け、利用者の権利擁護とサービスの質的向上を目的に創設された。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 苦情申し立てに至るほど問題が大きくならないうちに、サービス提供事業者等へ問題を橋渡しし、サービス提供事業者自らが解決を図ることを支援する。 行政側： 国民健康保険団体連合会へサービスの苦情になる前に介護保険者として介護保険事業の機能を十分に監督し被保険者が適切にサービスを利用できるよう権利を守る責務を果たす。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
<b>(11) 協働による効果</b>			
市民側: 介護サービス相談員の活動を通じて利用者の日常の声をきくことで、サービスの改善点を探る重要な手がかりになるなど利用者だけでなく事業者にも効果が見られる。			
行政側: 市が受ける苦情処理はトラブルが起きた時の事後処理が中心となるが、問題が大きくなる前に未然に解決を図ることができる。			
<b>(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</b>			
市民側: 困難な事項への解決方法や、事業所への報告方法などが課題となっている。			
行政側: 相談員の訪問のスキルや定年制度など、さらなる訪問の質向上を図る必要がある。			
<b>事業の様子(写真等)</b>			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	担当課	高齢介護課包括支援係 担当山下 内線2128
------	--------------------	-----	---------------------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成18年8月から年2回開催 場所： 青梅市役所会議室
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成18年 月)
(2) 事業の目的	養護者による高齢者虐待の防止、養護者による高齢者虐待を受けた高齢者の保護および養護者に対する支援を行うために、本市における関係機関、民間団体等との連携協力体制を整備する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	あり。高齢者虐待に関する全体的な構想や対応について協議や相談ができ、今まで課題が実現化する基盤ができた。
(4) 実施内容(実績値等)	1高齢者虐待に関する情報交換ならびに関係機関の連携および協力の推進に関すること。2高齢者虐待に関する広報・啓発活動に関すること。3養護者に対する支援に関すること。4高齢者虐待に関する地域包括支援センターへの支援・助言等に関すること等
(5) 事業経費(決算額)	委員報償金 11,500円(予算額23,000円)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 社会福祉協議会の代表1人、民生児童委員会合同協議会の代表2人、東京弁護士会の代表1人、ケアマネジャー連絡会の代表1人、人権擁護委員の代表1人 参加人数: 6人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成18年4月「高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行され地域において高齢者虐待ネットワークを構築するため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 委員は、所属する団体の専門的な見地から地域包括支援センターへ対して、高齢者虐待に関する適切な支援・助言等を行う。 行政側： 体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 ネットワークの構築により、早期に介入や対応ができたことで高齢者の生命の保持、安全を確保できた。</p>			
<p>行政側 ①委員の専門的な見地から意見、助言をもらったことで、予防、対応、権利擁護が適切に行えた。ケア会議の開催時出席②緊急一時保護、やむを得ない措置による入所、市長申立てによる成年後見制度をおこなった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 : 虐待の早期発見、通報の周知。見守りの強化。成年後見制度の周知。</p>			
<p>行政側 : 虐待の早期発見、虐待通報の徹底化により、早期に関係機関が介入する体制を強化でき、被虐待者、養護者の支援に早く対応する。①緊急一時保護先の確保 ②高齢者虐待に関する市民への啓蒙活動</p>			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市障がい者交流バスハイク	担当課	障がい者福祉課庶務係
------	----------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年11月25日(土) 場所： 小田原周辺(小田原城、小田原漁港、県立生命の星・地球博物館)
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(      年      月)
(2) 事業の目的	バスハイクを通して障害者やその家族の交流を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅市障害者団体連合会との協働事業とすることにより、よりよい見学先を選定することで、多くの障害者の参加を得る。
(4) 実施内容(実績値等)	大型バス2台を借り上げ、小田原周辺の施設等を見学した。81人の参加を得た。
(5) 事業経費(決算額)	参加者負担額: 16,200円(保険代等) 青梅市負担額: 269,560円(大型貸切観光バス代(2台分)、有料道路代、駐車場代、ガイド代)

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市障害者団体連合会 参加人数： 2名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	障がい者交流バスハイクの実施にあたっては、見学先を選定および参加の募集について、従前から青梅市障害者団体連合会の協力を得ていたため、協働事業として位置付けた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 見学先を選定、行程表の作成、申込用紙の作成、しおりの作成、参加者の受付、施設減免申請、駐車場予約、当日の運営等 行政側： バスの借上げ、広報おうめへの記事掲載、(個人)参加者の受付、当日の運営等

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

他障害の方や家族で交流する行事はとても必要であり、障がい者福祉課と障害者団体のお互いの交流や話し合いもあり、多くの人が参加できた。当日の進行も障がい者福祉課と障害者団体との交流がスムーズに協働でできた。

#### 行政側

限られた予算の中で、青梅市障害者団体連合会に見学先の選定および行程案を作成いただいたことにより、多くの参加者を得ることができた。また、当日の運営にも携わっていただいたことにより、事故等もなく円滑に実施することができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

- ・バスハイクの参加対象者は市内在住の障がい者とその家族の方になっているが、今回知人が含まれていたケースがあり辞退していただいた。申込みを受ける段階で対象者かどうか確認したほうがよい。
- ・当日のキャンセルは実費を自己負担していただくことになっていたが、保険料支払い後のキャンセルも実費をいただいた方がよいのではとの意見があった。
- ・障害者団体連合会の所属団体の代表者が参加しない場合、責任者を事前に決めてほしい。今回、一軒一軒連絡事項を電話したことがあった。
- ・施設への入場の際にパンフレット等を渡す時に大人数のためにスムーズにできなかった。お手伝いしてくれる方もいたが、事前に決めていた方がよい。

#### 行政側

- ・対象者を市内在住の障がい者とその家族の方としているが、対象ではない方の申込みがあった。今後は事前の確認を徹底していきたい。
- ・毎回、秋の行楽シーズンに実施しているため、高速道路等の渋滞により予定が狂うことが予測される。参加者の負担とならないよう、余裕のある行程を組んでいく必要がある。

#### 事業の様子(写真等)

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	平成29年度 中級手話講習会	担当課	障がい者福祉課 認定サービス係
------	----------------	-----	-----------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年5月～平成30年2月 全33回 (講習会および行事) 場所:青梅市福祉センター
	①単年度事業 ②継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(      年      月)
(2) 事業の目的	手話を学ぶことによって、福祉に対する関心を高め、聴覚障害者の社会参加を推進すること。 手話による日常会話の技術を習得する。「聴覚障害者」の理解と啓発を促進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	中級手話講習会修了者が上級手話講習会(定員20名)に移行し、手話サークル等で活動することにより、聴覚障害者の社会参加等を推進させる。
(4) 実施内容(実績値等)	中級手話講習会に25名の受講者があり、23名が修了した。平均出席23名(30回の講習のうち8割の受講が必要)
(5) 事業経費(決算額)	165,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市聴覚障害者協会 参加人数:ろう講師1名 健アシスタント2名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市聴覚障害者協会の事業として実施されていたが、従前より協力依頼があったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 講習会の運営  行政側: 会場の確保・広報および参加申し込み窓口・講師報償金の助成

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

日頃より青梅市聴覚障害者協会に御支援御協力を頂き、感謝しております。  
また、会場確保につきましては、講習会会場の予約手続き等行っていただいたおかげで、全33回の手話講習会をスムーズに行うことができました。手話講習会については、厚生労働省テキスト初級から中級を使用し、音声無で学習したため、ろう者とのコミュニケーションが取れるようになり、障害者差別解消につながっています。

手話講習会については、障がい者福祉課と青梅市聴覚障害者協会との協働活動が定着してまいりました。今後も、聴覚障害者の社会参加促進のために講習会を継続していきたいです。

#### 行政側

入門・初級手話講習会に続き、中級手話講習会を行ったことにより、受講生がろう者とのコミュニケーションが取れるようになるまでに手話の技能習得が図られた。

また、講習会の内容についても、定期的に行われるテストや音声の無い学習等、手話習得のための工夫による効果は大きい。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

平成30年度より、入門・初級手話講習会は、昼と夜の2コースで行われます。東京都は、今年の10月に「手話に関する差別解消法」を発表するようです。障がい者福祉課と青梅市聴覚障害者協会との協働活動は、とても大切だと思っています。今後ともよろしくお願いします。

#### 行政側

入門・初級手話講習会は、今まで昼の部のみの開講であったが、平成30年度から、夜の部も開講することになった。  
手話に親しむ機会の拡大を図ることが可能となる。入門、初級そして平成31年には中級と手話によるコミュニケーション能力の向上を図り、聴覚障害者の社会参加を促進していきたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	第48回おうめ健康まつり	担当課	健康課健康推進係
------	--------------	-----	----------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 29年6月11日(日) 場所: 青梅市役所(1階ロビー、2階会議室等)
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和45年 月)
(2) 事業の目的	健康に関する正しい知識や情報の提供など、健康づくりの普及啓発の機会とし、健康についての認識と自覚の高揚を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	自分の健康は自分で守るという自覚を持って健康づくりに取り組むためには、保健衛生に関する知識が必要である。おうめ健康まつりにおいて医療関係者による保健衛生知識の普及啓発を行い、健康に対する意識を向上させ、より効率的に市民の健康づくりを促進させること。
(4) 実施内容(実績値等)	家族ぐるみの健康づくりをテーマに、健康・歯科・薬・ペットなどの相談、血管年齢測定、ヘルスチェック、生活習慣病の予防、栄養に関する展示、転倒予防教室、美姿勢の秘訣講座、梅っこ体操講習会、体操教室や医師会、歯科医師会、薬剤師会による講演会等を実施した。※延べ参加人数6,302人
(5) 事業経費(決算額)	有り 医師等報償金等 533,920円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:【共催】青梅市三師会 【協賛】青梅市薬業会、青梅市接骨師会、(社)東京都獣医師会多摩西支部、 薬物乱用防止推進青梅・奥多摩地区協議会、西多摩地区保護司会青梅分区、西東京農協組合、青梅市民生児童委員合同協議会 参加人数:【共催】青梅市三師会(28人) 【協賛】青梅市薬業会(18人)、青梅市接骨師会(9人)、東京都獣医師会多摩西支部(2人)、薬物乱用防止推進青梅・奥多摩(7人)、西多摩地区保護司会青梅分区(18人)、西東京農協組合(2人)、青梅市民生児童委員合同協議会(5人)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	不明
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(不明)
(6) 役割分担	市民側: 医療関係者等の立場から健康づくりに関する専門知識を提供する。 行政側: 健康づくりに関する情報を提供し保健衛生知識の普及啓発を図る。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
<p>市民側 来場者に対し専門的(医師等)な立場から情報提供ができた。さらに、市民の健康意識の高まりを感じることができた。</p>			
<p>行政側 来場者に対し、健康づくりに関する情報提供を行い、保健衛生知識の普及啓発を図ることができた。また、歯科ブースにおいてクイズ・ゲームコーナーを設けるなど、親子で楽しめる企画を行い、家族ぐるみで参加できるイベントを実施することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 来場者の健康状態を把握・分析および相談等を行い、健康づくりに対する意識向上が図れるよう検討していききたい。</p>			
<p>行政側 より多くの来場者を確保するために、医師など専門的知識を有する者と協働し、毎年度、事業内容の見直しを図る。</p>			
事業の様子(写真等)			
<p>各コーナー盛況であり、目標の来場者数600人を概ね達成できた。 (別添データ参照)</p>			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	永山ふれあいセンター「キッズぱーく」管理・運営事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	---------------------------	-----	--------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週火曜日～土曜日 午前10時～午後3時（年末年始を除く） 場所： 永山ふれあいセンター内
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成23年10月)
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子育てに関する専門的な知識を有するスタッフを配置することにより、親子同士の交流の仲立ち、子育て相談等に関する相談、援助や地域の子育て関連情報の提供をすることにより、子育てへの不安感等の軽減が図られる。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市永山ふれあいセンター「キッズぱーく」において、NPO法人への委託により、利用者への安全配慮および保護者と乳幼児への子育てサポートおよび子どもの遊び場の提供を行った。 (利用者数 <b>4,386人</b> )
(5) 事業経費(決算額)	<b>2,920,900円</b>

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 特定非営利活動法人 青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： 開館中は、ローテーションにより常時2名配置
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	永山ふれあいセンターを子育てスペースとして場所の提供を行っていたが、スタッフを配置してひろば事業として実施することとなり、市内NPO法人青梅ファミリーサポートはあとへの事業委託を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： NPO団体が「キッズぱーく」の管理・運営を実施する。  行政側： 基本管理総括、周知PR、相談業務関係をはじめとして子育て関連部署・機関との連携。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 乳幼児の親子が出会い、安心して過ごせる場所を提供できた。並びに利用者同士がふれあい、スタッフ達が寄り添い、その関わりの中で子育てに対する情報を共有することができた。</p>			
<p>行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等を実施したことにより、子育てに対する不安の軽減や親子同士の交流の機会を増やすことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 より良い活動を行うため、子育てに関する情報、知識を積極的に学び、意見交換し、実践していけるようにする。</p>			
<p>行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等の充実および子育て関連部署・機関との連携に心がける。</p>			
<p>事業の様子(写真等)</p> <p>乳幼児とその保護者がゆったり遊べ、憩いの場となっていて、保護者同士の交流もある。こじんまりとしたスペースのため少数の親子が静かな環境で落ち着いて時間を過ごしている。</p>			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市ファミリー・サポート・センター事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	----------------------	-----	--------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 通年(事務局は平日開設) 場所： 利用会員の要望する場所(事務局は、東青梅センタービル3階)
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成18年10月)
(2) 事業の目的	子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	育児の援助を受けたい家庭に対し、育児の援助を行いたい有償ボランティアが活動を行うことにより、地域で支え合える子育て支援となる。
(4) 実施内容(実績値等)	子育て支援を求める者(利用会員)と子育てを支援する(提供会員)による会員制の有償ボランティア活動。東青梅センタービルにNPO法人への委託方式で事務局を設け、会員の募集、講習、コーディネートを行う。 (会員数 841人 利用件数 1,283件)
(5) 事業経費(決算額)	6,989,009円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： NPO法人青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： 2名(事務局に係る人数)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	子育て支援政策として、運営等実績のあるNPO法人との協働が望ましいと考え、当該事業にふさわしい団体であったため。なお、当該事業は、市民による有償ボランティア活動であり、その意味では、事業そのものが会員(協働)事業である。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： (会員)相互援助活動・有償ボランティア活動としての事業実施(NPO法人)事務局としての運営管理、会員間のコーディネート。 行政側： 体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

支援を必要とする子育て家庭を地域の援助者につなげ、有効な援助関係を築くことができた。地域に密着したNPOとしての特性を生かした運営ができた。

#### 行政側

事業実施により、子育て家庭への支援の充実が図られた。また、事業実施実績のあるNPO法人に事業委託することによりスムーズな運営ができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

援助を必要とする子育て家庭を適切な支援につなげるために、さらなる周知を図りたい。ニーズに見合ったサービスができるよう援助者の質的・量的充実を目指したい。

#### 行政側

子育て家庭の支援の充実を図るために、今後も会員の拡大、制度・利用者増加に向けた周知方法の検討が必要である。

個々の事例について会員の立場に立った適切な対応を図っていけるよう支援に努めていく。

#### 事業の様子(写真等)

利用会員が提供会員に子どもを預けることで、子どもの預かりサービスだけでなく、地域の住民の緩やかなつながりを醸成する効果がある。子どもも比較的高齢な方が多い提供会員になついたりするので、多世代の交流にもなっている。

## 平成29年度分 協働事業評価シート(表)

事業名称	子育てネット事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	----------	-----	--------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 年間を通じて、子育て関連ホームページの作成及び運営を行う。 場所： 事務局 勝沼3-78 KTホール2F
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年1月)
(2) 事業の目的	市の子育て支援サービスや製作および市内の子育て関連NPO法人や子育てサークルなどの様々な子育て関連情報を一目でわかりやすく伝えるため、子育て関連ホームページを開設し、児童および子育て家庭の福祉向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市の子育て支援サービスや子育てに関連情報をホームページを通じ、広く分かりやすく提供し子育て支援をする。
(4) 実施内容(実績値等)	子育てに特化したホームページの開設および運営(年間アクセス数 <span style="color: red;">397,065</span> 件)
(5) 事業経費(決算額)	<span style="color: red;">1,620,000円</span>

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:特定非営利活動法人 子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩 参加人数:HP担当スタッフ15名+記者スタッフのべ40名程度
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	行政による一方的な情報だけでなく、市民の目線を生かした行政情報以外の様々な情報を楽しく伝えるため、NPO法人へ委託を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： ホームページの開設・運営、情報収集、関連団体と連携等を実施する。  行政側： ホームページの基本管理、市の情報提供等

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民目線の情報を記載できることやフットワークの良い対応ができることがある。子ども関連の団体とのネットワークで情報を提供することができた。また、担当者と打ち合わせでの意見交換で新しいページができた。</p>			
<p>行政側 NPO法人への委託により、市からの一方的な情報提供だけでなく、市民が求めている様々な情報を楽しく伝えることができた。また、経費面においても効果があった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 行政的立場からいくと、平等性をもとめられるがNPOへの委託である魅力は、主観的な視点で表現できることであるが、だんだんとそれが出来なくなった。また、情報ツールは、時代と共に変化していくので環境に合わせたものに移行していくことは必要な事であると考えます。そのあたりの論議を一緒にできたら良かった。</p>			
<p>行政側 ホームページの充実、特集記事等の充実や掲示板などによる利用者の参加増加につながるよう取り組んでいく。広報や市HPに掲載しきれない情報の発信の場としても効果がある。広く周知を行うことにより子育てネットのアクセス数増加と、市で行っている様々な事業の参加者増という相乗効果も期待できる。</p>			
事業の様子(写真等)			
<p>NPOとの協働により、市内の様々な場所を取材し、HPに掲載できている。写真なども豊富で、市のHPとは違った親しみやすい情報発信ができている。</p>			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	子どもふれあいフェスタ2017	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	-----------------	-----	--------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年11月5日 場所： 永山ふれあいセンター
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成 年 月)
(2) 事業の目的	子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子育て支援、子どもたちの健全育成および異世代交流の場となる。
(4) 実施内容(実績値等)	異世代交流コーナー、親子交流コーナー、ゲームコーナー、パフォーマンスステージ、自然体験コーナー、模擬店コーナー(入場者数 1,211人)
(5) 事業経費(決算額)	330,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	1 政策立案・事業企画等 2 事業共催 3 事業協力 4 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 団体名:子どもふれあいフェスタ2017実行委員会(NPO法人青梅ファミリーサポートはあと、NPO法人青梅こども未来、NPO法人子ども文化のNPO子ども劇場西多摩の3団体) 参加人数： 実行委員参加人数15名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市内子育て関連NPO法人を中心に子育て中の親子と小・中学生等を対象に子育てを支援し、ともに楽しめるフェスティバルを実施する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市内NPO法人を中心に実行委員会形式にて企画・運営をする。 行政側： 補助金の交付とともに、企画段階からオブザーバーとして実行委員会に加わっている。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側                      実行委員会は市内の子育て関連NPO法人3団体で構成されている。これまでの経験と実績、及び行政の担当課による連携と協力により、それぞれの持ち味を存分に活かすことができた。その結果、親子のふれあい、親の交流の場、情報交換の場、レクリエーションの場をつくることができ、参加者から好評を得た。</p>			
<p>行政側                      子育て支援事業(親の交流や親子のふれあい、情報交換、レクリエーション、PRなど)を推進することができた。市民の豊かで自由な発想による企画立案ができた。市民のマンパワーを活用することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側                      13回目の開催となった会場(永山ふれあいセンター)が来年度で閉鎖となる予定だが、今後も市内の子育て中の親子、家族の交流、ふれあいの場として開催していきたいと考えている。                      継続開催及び更なる充実に向け、行政との協力関係が重要と考える。</p>			
<p>行政側                      補助金が逡減してくなかでいかに存続させていくかが今後の課題。利益目的のイベントではないため、どこから予算を調達するかを考えていかなければならない。</p>			
事業の様子(写真等)			
<p>・子どもとその保護者や、小学生のグループなど多くの人が訪れ盛況だった。販売しているものの価格も安く、小学生がお小遣いの範疇で十分楽しめるイベントとなっていた。                      ・さまざまな年齢層の子どもがイベントを手伝っている。年齢に応じて子どもの役割も変わり、非常に貴重な体験ができています。</p>			



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター子育て支援事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	-----------------	-----	--------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週月曜日、火曜日、金曜日、 第2土曜日 場所： 青梅市民センター内 キッズルーム
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成23年10月)
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児親子のゆったりのんびりした遊びと情報交換の居場所作り</li> <li>・ 学童(異年齢)遊びを通しての交流と居場所づくり</li> </ul>
(4) 実施内容(実績値等)	NPO法人青梅ファミリーサポートはあと、NPO法人青梅こども未来、NPO法人子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩の3団体との協働で子どもたちの遊びの場、親子の憩いと情報交換のための居場所の提供(利用者数1,717人)
(5) 事業経費(決算額)	1,066,176円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： すきっぷ実行委員会 参加人数： 3団体のローテーションで実施。常時2名配置(土曜日のみ3名配置)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	それぞれの団体の持つ特色を生かしての子育て支援事業を展開する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 乳幼児親子・児童の遊びと憩いの場・情報交換等の居場所づくり 行政側： 実施会場の提供・事業の広報・関係機関との調整

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的に行っている事業のため、利用する子どもたちの変化や成長に気づくことができ、学校・家庭以外の居場所での見守りとなっているところ</li> <li>・子どもたちの現状を見守る役割としての協働事業ではあるが、特に心配なケースを市役所の方と共有できることで、どう見守るか考えることができるところ</li> <li>・上記のようなことがあることで、安心安全な環境での見守りとなっているところ</li> </ul> <p>行政側</p> <p>それぞれのNPO団体の持つ得意分野を生かし、魅力ある子育て支援事業を行うことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋の構造上、声が響きやすく隣に学習室があることで静かに遊ばないといけない場所であるということと、カーペットの不快な臭いが取れないので、利用者共々ストレスを感じることもある。部屋の内装を改装したり、実施場所の変更などを行って、より良い居場所となるように改善したい。</li> <li>・すきっぷ事業が30年度までと予定されているが、一小学区にすきっぷのような子どもたちの居場所が必要だと感じ、引き続き開設されることを切に願う。</li> <li>・センター内全面飲食禁止を徹底することになり、キッズルーム室内にて昼食が取れず利用者げ減少。利用者同士で食事マナーや食育の話や会話などを楽しんでいたため、昼食を取れるようにしたい。</li> <li>・夏場は熱中症対策として、水筒の利用を可能にして欲しい。</li> </ul> <p>行政側</p> <p>今後も乳幼児の親子や小学生の安心・安全の居場所作りの場を提供できるよう心がける。</p>			
<p>事業の様子(写真等)</p> <p>月曜日は乳幼児とその保護者がゆったり遊べ、憩いの場となっていて、保護者同士の交流もある。水曜日・木曜日は小学生の利用が多く、職員の指導の下ボードゲーム等で幅広い年齢層の交流の場となっている。毎月第2土曜日は工作などをし、好評を得ている。</p>			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市親子ふれあい綱引き大会	担当課	子ども家庭支援課 青少年担当
------	----------------	-----	----------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年2月4日(日) 場所:青梅市総合体育館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成15年1月)
(2) 事業の目的	青少年自身が地域活動に参加する機会や場を提供するとともに、綱引き大会に親子で参加することで、ふれあい、異年齢交流を図りながら、地域社会全体で青少年の健全育成を図ることを目的としている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	幼稚園・保育園、小学生低学年、小学生高学年、中学生男子、中学生女子、ふれあい、一般男子、一般女子の全8部門で合計80程度の出場チームより「親子ふれあい綱引き大会」を開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	親子ふれあい綱引き大会実行委員会の開催、会場設営等開催準備、総務・進行・受付接待・放送・選手・模擬店および会場、賞品等各係による当日の大会運営を行う。
(5) 事業経費(決算額)	事業実施委託料 570,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会、各地区委員会(11地区) 参加人数:60人(他青梅市スポーツ推進委員協議会、日本綱引連盟公式審判員等総勢約92人)
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成9年頃から、青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会において、市全体の統一事業として開催することについて検討が始められ、平成15年1月19日に「第1回青梅市親子ふれあい綱引き大会」が総合体育館で開催された。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 実行委員会を組織し、大会実施のための準備をすること。 大会前日の準備や当日の運営をすること。 行政側: 事務局として、大会の周知、出場チーム募集等の広報、実行委員会や組合せ抽選会等の準備を行うとともに、大会に必要な物品や消耗品の調達をすること。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

例年、行政側が実行委員会事務局を担当することで、市広報・HP等による参加チームの募集および受付事務ならびに実行委員会や出場チーム組合せ抽選会会議の開催事務、必要物品や各種資材の調達等も円滑に行われている。また、大会運営については、スポーツ推進委員や綱引連盟公式審判員、青少年対策地区委員が行うことで、スムーズな進行となっている。

#### 行政側

大会前日の会場設営や当日の出場選手、応援者等大会参加者の整理、誘導について、役員や実行委員が協力し円滑に行った。また、今までの準備等の作業と反省をもとに作成したマニュアルを活用し、それぞれの役割分担を理解してもらい、スムーズに進行することができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

地域の出場チームの呼びかけ、準備、当日の役割分担等の反省をもとに、さらに改善に努め、より良い大会にしてゆきたい。

#### 行政側

昨年の反省事項、改善要望等を踏まえ、参加者から喜ばれる大会として質の向上に努めてゆきたい。また、協働を行っている実行委員との円滑な連携を図ってゆきたい。

大会の模擬店の内容について、検討が必要となっている。参加者に喜ばれるような計画としたい。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅駅周辺景観まちづくり	担当課	都市計画課開発指導係
------	--------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:6/16、9/29、12/22、3/23 場所:本町会館
1単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(      年      月)
(2) 事業の目的	青梅駅周辺地区景観形成基本計画の目標とする「里山と川に包まれ 歴史が息づき 文化の薫る魅力あるまち」の実現に向けて、調査、研究および地区内住民等の意識の高揚を図り、景観まちづくりの推進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅駅周辺の景観まちづくりを推進するため、「青梅宿の景観を育む会」の市民団体と協働で機関誌(風景通信)の発行や青梅駅周辺地区内の景観まちづくりに対する取組みの普及啓発を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅駅周辺景観形成地区における行為の届出についての周知活動、景観形成重要資源の指定に向けて所有者の意向確認を行った。
(5) 事業経費(決算額)	景観形成助成金(景観まちづくり市民団体への助成)30,000円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅宿の景観を育む会(会員15名) 参加人数:各回10名程度
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成17年度に、「景観形成地区」の指定や「景観形成計画・基準」を策定するにあたり、地区内の自治会や商店街の代表者および座談会の出席者で発足した「青梅宿の景観を育む会」と協働で景観まちづくりの啓発を行うこととなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	3. その他  その他の場合具体的に(計画の意思形成過程)
(6) 役割分担	市民側: 青梅駅周辺地区景観形成における行為の届出についての周知活動、景観形成重要資源の指定に向けて所有者の意向確認、住宅修景に向けて所有者への説明等を行う。  行政側: 団体協議の場の提供、懸案事項等を報告、相談。

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側                      青梅駅周辺景観形成基本計画に対する理解が進み、建物等の新築・改築時に計画に沿った形で進めてもらえるようになった。                      市への届出に対する抵抗が減ってきている。</p>			
<p>行政側                      青梅駅周辺景観形成地区における行為の届出についての周知を進めるとともに、景観形成重要資源の指定に向けて所有者の意向確認や住宅修景に向けて所有者への説明など協議会での話し合いから、景観まちづくりへの取組に対して共通認識を深めた。また、青梅市景観形成重要資源の3棟が東京都選定歴史的建造物に選定されたことは、景観まちづくりを協働で取り組んだ成果と捉えている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側                      建物等の意匠変更をするときに、市への届出義務があることを、市民・業者へ一層の徹底を図っていく。特に塗り替え・小規模変更の場合への周知が必要。                      協議会へ景観意識の高い若者の参加を促す。                      景観重要資源をはじめとして、古い建物の保存・活用と経済性の問題を解決する方策を検討する。</p>			
<p>行政側                      各町内の会員との連携を深めると同時に、市民団体の主体性をより高めるための体制作りを進めていく必要がある。また、活動の成果が目に見える形で残るように進める必要がある。</p>			
事業の様子(写真等)			

## 協働事業評価シート(表)

事業名称	大塚山いこいの森ボランティア	担当課	公園緑地課公園管理係
------	----------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 6月および9月の第1日曜日 場所： 大塚山いこいの森(大塚山公園隣接地)
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期 (平成22年6月)
(2) 事業の目的	みどり豊かな環境と景観を形成し、快適な生活環境を創出するとともに市民の自然体験および学習の場として活用を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	予定： 年間参加人数 延べ200人 実績： 年間参加人数 延べ168人(6月・・・96人、9月・・・72人)
(4) 実施内容(実績値等)	大塚山いこいの森内の清掃、除草、下草刈り作業等
(5) 事業経費(決算額)	消耗品費 1,296円、食糧費 20,160円      合計 21,456円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： いこいの森を育てる会(近隣5自治会・4小PTA・青少対第8地区委員会) 参加人数： 延べ168人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地元からの要望にもとづき、針葉樹を伐採し、広葉樹化を図った際に、市民ボランティア等と協働して清掃、下草刈り等の管理作業を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 管理区分の清掃および下草刈り等(植栽育成に必要な作業) 行政側： 管理区分の作業計画および施設全体の管理計画の作成

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

いこいの森を市民の自然体験および学習の場として良好な状態に保全するすることができた。また、市立第四小学校の郊外学習の場として幅広く利用されている。

なお、植栽樹木の生育状況も良好であり、森として形成されてきている。

#### 行政側

ボランティアと協働で清掃および下草刈り等の管理作業が実施でき、快適な生活環境の創出と市民の自然体験や学習の場として提供することができた。また、作業には、家族連れの方も多く参加している状況から、いこいの森を身近な場所として捉えていただいていると感じられた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

作業日が関係団体等の行事等に重なることがあることから、次年度からは開催日の固定化(6月、9月の第1日曜日)を図る必要がある。また、参加者が若干減少傾向にあるため、人数の継続確保対策も課題である。

#### 行政側

大塚山いこいの森ボランティアとの協働による管理により、森は良好な状態に保全されている。また、植栽樹木の生育状況も良好であることから、今後は枝払い等の作業も発生することから、剪定鋏や鋸等の作業道具を揃える必要がある。

### 事業の様子(写真等)





## 協働事業評価シート(表)

事業名称	緑地管理ボランティア	担当課	公園緑地課 公園管理係
------	------------	-----	-------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎月第3土曜日(8月を除く。) 場所： 永山公園内ボランティア管理緑地ほか		
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期 (平成15年6月)		
(2) 事業の目的	下草刈りや間伐等の緑地管理作業等をボランティアで行うことにより、公園・緑地の大切さを実感しつつ、行政と一体となった公園・緑地の利用推進、緑の保全および育成、また、ボランティア相互の親睦を深め、もってボランティアによる自主的な緑地管理運営を図ることを目的とする。		
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	年間参加人数(予定延べ100人) ⇒ 実績:参加人数 延べ92人(雨天による中止1日あり)		
(4) 実施内容(実績値等)	下草刈、除伐、枯損木伐採および萌芽更新等を目的とした間伐等		
(5) 事業経費(決算額)	講師報償金 195,000円 ・ 食糧費 33,045円 ・ 保険料 11,730円                      合計 239,775円		

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力		
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 緑地管理ボランティア 参加人数： 22人(登録人数)		
(3) 協働の提案者	1行政からの提案		
(4) 協働の理由・きっかけ	公園・緑地の大切さを実感しつつ、行政と一体となった公園・緑地の利用推進、緑の保全および育成、また、ボランティア相互の親睦を深め、もってボランティアによる自主的な緑地管理運営を図ることを目的として制度を設置した。		
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(		
(6) 役割分担	市民側： 実施作業  行政側： 実施計画の策定		

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5

### (11) 協働による効果

#### 市民側

本年度は、永山公園内ボランティア管理緑地のみの管理作業を実施した。毎月少しずつではあるが下草刈りおよび除伐中心の作業を行ってきたが、その成果が目に見えて確認できることにより、達成感を味わうことができたとともに、ボランティア会員の親睦が深まった。

#### 行政側

永山公園内ボランティア管理緑地の管理作業を1年を通して実施したことにより、ハイキングコースからの景観や解放的な空間が確保できた。また、実施した成果が目当たり確認できるため、ボランティア活動に対する充実感を味わっていただけたものと考えている。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

会員の高齢化や毎回の参加者数が硬直化していることから、これから活動内容を充実していくには、新規の会員を取り込む必要がある。また、管理区域を有効に活用していただくため、もう少し園路の整備を行う必要がある。

#### 行政側

登録者はある程度いるものの参加者が一定の人となっていることから、一度登録者の整理をする必要がある。また、会員の高齢化も進んでいることから、会員募集(随時)を行い、若い世代の参加者を取り込む必要がある。

### 事業の様子(写真等)



## 協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅の森保全プロジェクト (青梅の森保全事業)	担当課	公園緑地課緑化推進係
------	----------------------------	-----	------------

### 1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年4月から平成30年3月 場所： 青梅の森ほか
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年9月)
(2) 事業の目的	保全活動等を行う各種団体等と協働で青梅の森保全事業を行う。貴重な野生生物の生息の場として、市民と維持体験を行い、未来に引き継ぐ。そして、この地を市民が自然とふれあえる場や里山の仕組みを体験・学習する場、散策やハイキング等の気楽に利用できるレクリエーションの場として活用するため。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅の森事業計画にもとづく管理、運営を行う。 動植物の観察、ウォーキング、保全活動等を通して多くの市民に体験してもらい保全活動への理解と環境等に対する意識の向上を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅の森内の下草刈り、除伐、間伐、作業路補修、ヨシ抜き、ヨシ刈り 原木きのこ栽培教室(17名)、森林療法(8名) ※( )内は一般参加者
(5) 事業経費(決算額)	報償費 26,000円、消耗品費 3,350円 合計 29,350円

### 2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	西多摩自然フォーラム、NPO法人青梅りんけん、日本野鳥の会奥多摩支部、森林ボランティア森守会、青梅の自然と環境を守る会、青梅の森ひさかきの会、青梅の森いきものネットワーク、青梅さとやま散歩の会 参加人数： 約50名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅の森の事業計画にもとづく運営組織を設置(8団体により構成:組織名=青梅の森保全プロジェクト)
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画、運営 行政側： 事務局全般、運営

## 協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

### (11) 協働による効果

#### 市民側

柚保プロジェクト会議により参加団体間の意見交換と調整、行政との意思疎通を図ることができた。  
 柚保プロジェクト共同企画により青梅の森の普及啓発をはかることができた。  
 柚保プロジェクト参加団体の活動及び共同作業により、青梅の森の保全・整備が進んだ。

#### 行政側

協働による体験講座等を開催し、市民が参加することにより「青梅の森」が自然と共存できる里山として身近に感じてもらえるとともに、保全活動の必要性や関心も深まる。  
 協働事業により、青梅の森の保全・整備ができた。

### (12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

#### 市民側

柚保プロジェクト共同企画の市民向けイベントは、きのこ栽培教室や森林療法への参加は多いが、保全活動への参加が少ない。  
 イベント参加者をリピーターとしてつなぐシステムが不十分である。登録ボランティア制度の確立が必要。  
 根ヶ布拠点施設を土日曜日に利用できるようにしてほしい。  
 北谷津(根ヶ布地区)で市民参加の活動を行うには、現地にトイレの設置が必要。

#### 行政側

体験講座等の事業内容、場所、時期、時間および募集方法を含め運営方法を検討する必要がある。  
 きのこ栽培教室会場の永山ふれあいセンターの閉鎖に伴う代替施設を選定する。  
 青梅の森保全活動のPRを行い、市民が参加しやすい環境を創る必要がある。

### 事業の様子(写真等)

